

様式第 3 号(第 9 条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附 属 機 関 等 の 名 称	令和 6 (2024) 年度第 4 回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開 催 日 時	令和 7 (2025) 年 2 月 2 6 日 (水) 午後 2 時から午後 4 時 3 0 分まで		
開 催 場 所	みよし市役所 6 階 6 0 1 ・ 6 0 2 会議室		
出 席 者	委 員 長：大村 恵 副委員長：都築 克章 委 員：大地由美子 丹羽 浩介 黒田 和秀 林 晴子 岡田 文子 山岡 直子 富樫佐智子 鈴木 睦子 鈴木 康之 平山 啓子 清水 素子 事 務 局：増岡教育長 富田教育部長 新美教育部参事 岡田教育部次長兼学校教育課長 鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹 本松保育課長 林スポーツ課長 橋本資料館長 林給食センター所長 二子石生涯学習課長 西世古学校教育課主幹 長谷川学校教育課主幹 中井学校教育課主幹 廣川学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 山口学校教育課副主幹 (計 2 9 名)		
次 回 開 催 予 定 日	令和 7 (2025) 年 6 月		
問 合 せ 先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0 5 6 1－3 2－8 0 2 6 ファックス：0 5 6 1－3 4－4 3 7 9 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下 欄 に 掲 載 す る も の	・ <u>議事録全文</u> ・ 議事録要約	要約した理由	
審議経過			
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	本日は、ご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。 定刻になりましたので、ただ今から「第 4 回 みよし市教育振興基本計画推進委員会」を始めさせていただきます。 初めに礼の交換をします。みなさま御起立ください。 一同 礼 よろしく願いいたします。御着席ください。 本日の会議ですが、名古屋学芸大学教授渡辺桜様、三好高等学校校長鈴木政之様、みよし市PTA会長山田竜治様から欠席の連絡をいただいておりますのでご承知をください。 また、この会議につきましては、会議録を取らせていただく関係上、ご発言される際は、お手元の機器のマイク電源をオン		

	にさせていただいてから話していただきますよう、ご協力をよろしく願います。
増岡教育長	それでは、本日の会議でお配りした要項に沿って進めさせていただきます。 はじめに、主催者を代表してみよし市教育委員会教育長、増岡潤一郎よりご挨拶を申し上げます。 教育長 挨拶
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	ここからにつきましては、みよし市教育振興基本計画推進委員会設置要綱によりまして、委員長であります大村先生に進行をお願いしたいと思います。
大村委員長	大村でございます。よろしくお願いいたします。 この土、日、月曜日と連休がございましたけども、僕は名古屋市中で開かれた全国自治体シンポジウム「こどもの施策のための自治体シンポジウム」に参加してまいりました。その中でいろんな議論がありましたけども、こどもの居場所づくりの分科会に参加したのですが、いつもですとこの分科会は、地域での居場所づくりということが、つまり家庭、学校ではない、第3のサードプレイスといいますかね。居場所づくりについて議論をしてきたんですが、今年は違って、学校に居場所をつくるというテーマで話されていました。つまりこれは裏を返すと、学校が子どもたちの居場所になっていない状況をどう変えていくのか。学校が子どもたちにとって、行きたくなる、友達とか先生とか、いろいろなおしゃべりが出来る、そういう場所になっているんだろうかということがありました。結論から言うと、わざわざ遊びの時間であるとか、あるいは学校カフェってということが特に取り上げられたのですが、学校の中では、お菓子を食べて、ジュースを飲んでお茶を飲んで、一緒に話したり遊んだりする、そういった時間が学校の中にはないということが言われてました。だから、つくらなければならない。今、小学校もそうだと思いますが、中学校でも部活が減らされてくる中で、子ども同士が語り合ったり、触れ合ったり、そういった時間も少なくなってきてるんじゃないかということが危惧されるんですね。一方、学校に居場所がなくて地域にあるのかっていうところも心もとないところがあって、両方考えなくちゃいけないんですけども、やはり学校をどうしていくのかってことは、全国で今考えられてるところだと思います。何より、今月の頭ぐらいでしたでしょうか。昨年も小中高校生の自殺の数が発表されました。子どもたちの自殺数が、近年、ここ10年ぐらいずっと増えているんですけども、2年前、500人を超えた514人だったんですね。それが非常に大きな衝撃でして、その次、おとしはちょっと減ったって言われて507人、それでも500人超えていたんです。ただ、その後507人っていうのは暫定値でして、最近確かめたら、確定値は513人で、つまり2年前とそんなに変わらなかったんですね。そ

	して昨年は527人とさらに増えました。少子化でこどもの数が減っている中で、自殺者がどんどん増えていくっていうのは一体どういったことなのか。もちろんその原因はいろいろありますが、多くのこどもたちは、なぜ自分が苦しいのかっていうことが説明出来ないこともあります。しかし、語れるこどもの話を聞くと、1番大きいのは学校に関わる要因、友達であるとか成績であるとか、あるいは先生との関係で。2番目には、家族の関係です。先ほど教育長さんもお話しになりましたけども、家庭も居場所じゃないっていうこどもが16%いるということは、2020年の段階の調査で出ていたのですが、つい最近、安城市で、こども計画をつくるのに、こどものアンケートをとられていて、高校生のアンケート結果を見てみると、やはり、家庭が居場所ではないという生徒が16%いました。ですから、家庭もやはり、関係づくりを考えなくちゃいけない。学校も考えなくちゃいけない、社会、地域社会でも考えなくちゃいけない。やはりテーマは共通していて、社会的孤立って言われているような1人1人がばらばらになっている関係をどうつくり直していくのかっていうことがベースにあるのかなというふうに考えています。この教育振興基本計画の中で、今後、どんな学校だったらみんな幸せになるんだろうか、こどもは行きたくなるんだろうか、あるいはそれを支える家庭とか地域社会はどんな家庭や地域社会だったらいいのかという夢を語りながら議論出来たらいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。
大村委員長	それでは、次第に沿って進めさせていただきます。それでは事務局からお願いいたします。
事務局・多治見	学校教育課の多治見です。よろしくお願いいたします。 それでは前のスライドあるいは御手元にある資料、どちらかを見ながらお聞きいただければと思います。 それではまず、資料1に関わって説明させていただきます。 まず作戦PlusOneの取組について。こちらの振り返り等、それから今後の展望ということでお話しさせていただきたいと思っています。PlusOneについては、みんなで育てるみよしっ子、いわゆる、共育・協育の周知に関しては、市民、保護者ともに割合は高まってきておりますが、来年度の目標値までには大きな差がありますので、なかなかここを埋めていくというのは大きな課題だと思っております。次期計画では、この言葉の周知に限らずに、地域学校協働活動の充実を図りながら、共育・協育の実感を伴っていただくようにしていくことが必要であると考えています。また、成果指標についても、保護者の割合が、市民よりも高い数値になるような形で考えていきたいかなと思っております。 続いて、作戦1についてです。 令和5年度から、子育て総合支援センターの運営を民間事業者に委託し、魅力ある講座の創設や相談を受ける体制の充実を目指してきました。今年度のこども・子育て支援ニーズ調

査において、気軽に相談できる人、場所がある人の割合としてはやや低下していることもあり、引き続きニーズに対応した企画を立案していく必要性を感じています。次期計画では、こども計画も策定されることから、小学校との連携する取組以外の、就園前の保護者に対する取組等をどこまで新教育プランに位置づけていくかは検討していかないといけないと思っております。また、全ての保護者がつながり、仲間になるような取組ができるといいかなと考えております。

続きまして、作戦2についてです。

放課後児童クラブの利用児童数は増えてはいるんですけども、待機児童が発生している学校もあります。タクシー移送という対応をしてきたんですけども、今後、タクシー移送を継続していくべきかについては検討が必要と考えています。放課こども教室が始まりましたので、そことの連携も検討し、地域学校協働活動の一環として継続していきたいと思っております。

続いて作戦3についてです。

今年度実施したアンケート結果より、家庭教育だより「はぐくみ」の周知には、まだまだ課題はあるんですけども、見ている方にとっては有益な情報になっていることも分かりました。その面では、一定数の効果があったと捉えております。ただし、「はぐくみ」を読むというよりは、みよし市のホームページ、子育て児童のコーナーから情報を得ている割合が32%であったので、次期計画においては、広報みよしに限らず、アプリ「みよびよ」との連携を図るなど、ICTの活用しながら、情報発信の方法を検討していきたいと考えております。

続いて、作戦4です。

残り1年で、目標値である60%に到達させることは難しい状況であります。相談件数は増えているため、ここの指標で書いてある、「公的機関」という言葉、そういった聞き方に問題があるかもしれません。また、新規で相談しやすいよう、相談事例や相談するメリットを発信していくことも視野に入れていきたいと考えています。次期計画においては、心理士の資格をもつ職員を学校教育課に配置をしていく、そういったことも検討しながら、引き続き相談機能の一層の強化を図ってきたいと思っております。

続いて、作戦5について、話し合う活動を通じて、自分の考えを深め、広げていると実感する児童生徒の割合が高まってきています。コロナ禍からの脱却という面で授業改善が図られてきているのかなと感じています。次期計画では、働き方改革という視点も含めながら、教員が主体的に研修に参加できる体制整備を課題として盛り込んでいけたらなと思っております。

続いて、作戦6についてです。

今6-1、6-2というふうに作戦が分かれているんですけども、GIGAスクール構想から5が経過しようとしています。

既に、設備や機器、ネットワーク環境などを完備できております。今後は、端末に慣れるという段階から、いよいよ効果的な活用というステップにシフトしていく必要があると考えています。次期計画では、この作戦6を統合し、先ほどビデオでも流していたんですけれども、中部小学校に、コンピューター室ではなく、フィーチャークラスルームという形で、大型のスクリーンとかプロジェクターとかを配備した部屋に作り替えましたので、そういった、教育DX推進という大きな枠で考えていきたいなと思っております。

続きまして作戦7についてです。

英語の授業における外国語指導の充実ということで、ALTの積極的な活用を目指してきました。しかしながら、小学校、中学校ともに低い活用率となっており、課題が見られます。

次期計画では、国際感覚を身につけるために、国際交流という視点を入れつつ、成果指標についても、例えば、「英語学ぶことは楽しいですか」といったような内容にするなど、見直しを図っていきたいと考えています。

続きまして、作戦8についてです。

策定当時は、「こどもの心を育てる教育を大切にします」が目標でありながら、途中で、情報モラルの観点が入ってきてしまったり、成果指標との関連で課題があったりしました。次期計画では、今一度心を育てる施策として、大きな変更を図らないといけないかなと思っております。小学校と中学校がつながるような取組を企画することで、上級生が下級生から頼られるような経験であったり、地域とつながっている人々に関わる機会をつくったりすることで、自信をもたせるような取組を入れていきたいと思います。また成果指標の見直しや道徳教育に限らず、もっと大きな視点、例えば人権教育といったような枠組の検討出来たらなと考えています。

続いて作戦9です。

全国体力運動能力調査の体力テストの合計点を見ていただければ明確でありますように、部活動の朝練の廃止や熱中症対策のための活動中止等の影響からか、体力の低下は、今後大きな課題であると感じています。

部活動の地域移行、地域展開を今後推進していく中で、それとは別に、体育の授業の在り方や、あるいは休み時間の過ごし方等、学校教育としてできる体力向上に向けた取組を検討していきたいと思っております。

続いて作戦10です。

個別の指導計画の活用状況は、既に100%という結果が続いております。したがって、成果指標については見直しを図る必要性を感じています。また、プレスクールの実施という面で、作戦10の取組が明記される必要が多かったため、次期計画では、インクルーシブ教育という大きな枠組みで、一人一人に適した支援の方法を検討し、計画に位置づけられるとよいと考えています。

	続いて、作戦11です。 みよし市独自で進めてきた施策であり、市内全小学校高学年の一部の教科ではあるんですけども、教科担任制が実施出来ています。また、そのうち6校については、中学年でも教科担任制が実施出来ております。しかしながら、近隣市町では、中学校で学年担任制を実施しているところもあると聞いています。教科担任制が必ずしも最適解であるとは限らないので、引き続きこどもにとってよいシステムかどうか、検証は行っていきたいと考えています。また本日のグループ協議でもアイデアをいただければと思っております。 続いて、作戦12です。 学校施設が安心安全快適であると答えた児童生徒の割合については、引き続き高い数字となっています。大規模改修の成果が出ていると感じています。次期計画では、単に今あるものを修繕していくという考え方ではなく、先ほどの中部小学校のフューチャークラスルームのような、新しい時代の学びを実現する学校施設の整備についても検討していきたいと考えています。 続いて、作戦13についてです。 コミュニティ・スクールの設置について、令和7年度に市内全小中学校にて完了予定となっていますので、今後の目標は、コミュニティ・スクールの充実、あるいは地域学校協働活動の充実ということになっていくのかと思います。作戦20の「地域の教育力を集め、学校づくりと地域づくりを支えます。」と作戦PlusOneとあわせて、再編を考えていく必要を感じております。 続きまして、作戦14の生涯学習講座については、サンライズ、おかよし交流センター、この先完成予定であります、みなよし交流センターでの講座の開設を前提とした多様な市民ニーズに即した講座体系の見直しを図っていく必要性を感じています。次期計画においては、作戦14の作戦名を、例えば「生涯学習拠点化の推進及び生涯学習活動支援」等に変更し、作戦15の生涯学習活動に対する支援についても、事業の中に盛り込んで、統合していきたいと考えております。 続いて作戦16について、市内にあります、三つの総合型地域スポーツクラブに対して、事業費補助を行い、団体の育成支援を行っております。また、中学校の休日部活動の地域移行、地域展開に伴い、こどもが継続してスポーツ活動が行える環境を整えて、総合型地域スポーツクラブとの連携について検討を行いました。次期計画においては、この教育振興基本計画同様に、スポーツ課のほうでも、スポーツ推進計画を令和8年度に策定することになっております。それと内容がリンクできるようにしながら、こどもや市民がスポーツに親しむ機会を増やすことができるよう、総合型地域スポーツクラブの活動支援を継続していきたいと考えております。 続いて、作戦17についてです。
--	---

成果指標が、今、陶器産地に特化していることであつたり、重点の内容も、展示に限っていたりすることについて、見直すべき点だと思っております。学識経験者からの意見では、こどもの意見を反映させるとよいということがありました。が、アンケート結果を見る限り、そもそもこどもに、また資料館の存在や魅力であつたり、文化財の周知がなかなか行き渡っていなかったりしていると感じております。現状では、こどもの意見を反映するというよりは、どうやってこどもたちに届けるかということに力を注ぎたいと思っております。成果指標についても、陶器産地に限らない内容に見直していきたいと思っております。

続いて、作戦18について。こどもも市民も、本を読むことが好きな割合が低くなっております。本を読むことで、偏った知識や思考以外の世界にふれることができること、また、創造力や読解力の向上につながることも期待出来ます。限られた生活時間の使い方として、スマホに向き合う時間を少しでも読書に回す、そういった取組が出来たらいいなと思っておりますし、次期計画に向けて、もっと読書に触れる機会が増えるよう、今動いておるんですけれども、みよし電子図書館を小中学校で利用できるかを検証しながら、こどもを対象にした講演会やワークショップの開催も計画していきたいと考えています。

続いて、作戦19についてです。

みよしのことが好きであると回答した児童生徒の割合については、目標値を達成しています。愛知県の教育振興基本計画においても、郷土愛の育成についてふれられており、みよし市としましても、引き続き、こどもたちがみよしを好きになるような環境整備や小中学校での授業においては、地域のゲストティーチャーの協力を得ながら、総合学習等で積極的に地域教材を取り入れるなどして、「みよし市に住み続けたいと思えるまちを自らがつくっていくんだ」といった思いをもってもらいたいと感じております。また、逆にみよしを離れ、違う場所で生活を送ることになっても、ふるさとみよしを誇りに思いながら生活してほしいと思っております。また、大人になってから、みよし市内に移り住んでみえる方についても、新たなみよしをつくる一員であるという意識を醸成していけるような取組を検討していきたいと思っております。

それでは、資料2について説明させていただきます。

先ほど教育長のほうからも話があつたんですけれども、10年前、この教育振興基本計画がつくられたときの状況と、今年度の状況を比較したような形で表としてまとめさせていただいております。これまで、教育振興基本計画推進委員会では触れる機会がなかったんですけれども、10年の施策の変遷が分かるようにし、表にまとめさせていただいております。例えば、重点2の放課後児童クラブによる、子育て支援の拡充においては、平成27年のときよりも順調に拡充し続けており、

この10年間で力を入れてきた施策であり、市民からも求められている施策であることが分かります。一方で、例えばなんですけれども、重点16においては、小学校のプールの一般開放やスポーツによる高齢者の介護予防対策について、事業自体が中止になっていたりと、時代に合わせて内容を変更して実施したりしている場合もあります。これらが全部で300以上ありますが、この状況を踏まえながら、今後、令和8年度からの新プランにおいて、引き続き力を入れていくべきかどうか、検討が必要だと考えております。また、この後の協議会でも話題にさせていただけたらありがたいと思っております。

最後、資料3について、説明させていただきます。

これについては今の資料2に関わって作成しております。

まず、赤枠のところですね、1番2番のところ、「どうして変わってきてしまったのか、あるいは事業が中止や廃止になったのか」等の理由について書かせていただいております。それから、左側の青い枠の3のところ。こちらについては、それを受けて、令和8年度からの次期計画では、どういう方向性がよいかを、あくまで担当者レベルになってしまいますが、書き表させていただきます。先ほどのNo.230の小学校のプールの一般開放で言えば、やはり熱中症予防の観点から事業が中止となってきたため、次期教育プランには入れないということで、「削除」という文字が入っております。その視点で見ていただけたらなと思っております。先ほども申し上げたんですけれども、全部で300以上載っておりますので、この状況を踏まえながら、今後、令和8年度からの新プランに引き続き、300でいくのか、もう少しやはり精選していくべきなのかというところも含めて、また御協議いただけたらと思っております。なお、左端の数字のところには、枠の色で、4種類に分けて示しております。黄色については、この施策を継続していきたい、あるいは、もっと力を入れて充実させていきたいと考えているものになります。緑色については、継続はしていきたいんですけれども、このままの内容では難しいと考えている、あるいは、もっとよい方向に切替えていく必要があると考えているものになります。青色については、やはりコロナの影響もあったんですけれども、時代に合わなくなっていて、事業自体がもう既に中止になってしまっているものや、整備済みあるいは達成済という意味で、次期計画では削除してもよいということで示させていただいております。赤色については、まだこの今の段階で言えば、はっきりと方向性が明記出来ない部分があったりとか、あるいは来年度の状況を見極めた上で判断したいといったりするものが検討事項ということで示しております。今後の協議のところで参考にしていただければと思っております。あくまで案という段階でお伝えさせていただいております。以上、資料1から3の説明になります。よろしくお願いいたします。

大村委員長	ありがとうございました。 ただいまご説明いただきましたけれども、今のところですね、御質問等ありましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。個々の施策はまた、協議のときに御説明いただいたりできるんですか。
事務局・多治見	はい、担当のものが入りますのでまたそちらでは聞いていただければと思っております。
大村委員長	細かい話は協議の時間にお聞き出来ますので、少し、疑問点等がありましたら今のうち出していただいたほうがいいかなと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、要項の5番目に入りたいと思います。事務局より御説明をお願いいたします。
事務局・多治見	資料4を御覧ください。スライドを見ていただいても結構です。 本当にこれまで皆様方には3回にわたって、基本理念等について御意見いただきありがとうございます。また年末年始の忙しい中でも、郵送にて、部内会議で固めた案についても見ていただきました。それに対しても、何名かの方には、早速、御意見というか、御返信いただきまして、本当にありがとうございました。今、まずここにある通りなんですけれども、基本理念については、「ともに学び、育ち、つながり、創る未来のみよし」ということでいかせていただきたいと思います。実際にこの案を郵送させていただいたときに、できるだけ、キャッチーで覚えていただけるような表現にしていきたいという思いもあったんですけれども、やはりいろいろ気持ちが入ってしまい、多少長くなってしまったところもあるのですが、1番私たちが言いたかったのは、「1人じゃないんだよと、みんなでやっていくんだよ」というメッセージを伝えたかったので、「ともに」の言葉を頭につけさせていただいて、それが学ぶ、育つ、つながる、創るというふうに修飾していくような感じでつくらせていただいております。「みんなで」という要素が入るように意識させていただきました。委員の方からは、学ぶことは、必ずしもみんなでなくてもよいのではないかという御意見もいただいたんですけれども、1人で学ぶ過程においても、やはり成長していくためにはどこかで誰かの力が必要とするときがあり、協働することでしか得ることができない学びもあるかと思いましたので、市としましては、「ともに」という言葉を入れさせていただいております。 続きまして、目指す人間像について説明させていただきます。こちらについても、これまでの委員会の中で、やはり自己肯定感が必要ではないか。それから、県のほうも示している、ウェルビーイングという要素もあるといいのではないかと、また、やはり最終的にはみよしとか、ふるさとという意識をもたせられるといいといったことがあったので、この三つを意識して文章をつくりました。また、目指す人間像については、3文で示すといった方向性もあったんですけれども、やはり

	人生100年社会ととらえたときに、最終的にはこういう人間をつくっていききたいといったものを示せるといいという考えから、一文に表させていただいております。自己肯定感については、「将来にわたって、自ら磨き」ということで表させていただいておりますし、ウェルビーイングの考え方についても、「みんな共に」というところで、やはり個の幸せにとどまらずに、周りの人やことと共にあるものであるという思いを含めております。最後、「時代」というところでは、次の時代っていう書き方もあったんですけども、そうすると、あくまでも子どもたち向けの限定的な捉えになってしまうこともあったので、やはり大人も生涯学習という観点で学ぶことができるという意味も含めるべきであるということから、「次代」ではなく「時代」というふうに表させていただいております。 最後、3番目、基本目標についてです。 これについてはもともと、3本の柱という言い方をしていたんですけども、やはり柱がなかなか並列ではないんじゃないかなっていうこともあったので、三つの目標という言い方にかえさせていただきました。1番は、こどもの育ちという観点、2番目が、市民の育ちという観点に、3番目が、その二つを支える家庭・地域づくりという観点で構成させていただいております。委員の方からは、1のたくましく生き抜くという表現がちょっと重いんじゃないか、時代に合っていないんじゃないかという御意見もいただきましたが、「レジリエンス」という言葉も大事にして、今、各校では取り組んでおりますので、いわゆるしなやかに、逆境を乗り越える力と捉え、生き抜くという意味について説明できればよいかなと考えております。この先、予測不可能な時代において必要な資質だと考えておりますので、このように表現させていただいております。以上、資料4の説明になります。お願いします。 はい、ありがとうございます。 それでは、今の御説明について、御質問等がありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。 ありがとうございました。それでは続きまして資料5、新プランの重点に位置づけるべき施策について、ということで協議に入るときの御説明をお願いいたします。 それでは資料5について説明させていただきます。本日皆さんの机の上に、カラーで印刷したものを置かさせていただいております。そちらからも訂正版ということで、今回はそちらを使って見ていただきたいと思いますので、差し替えのほうをお願いいたします。本日、皆さんに協議していただきたい内容なんですけれども、協議テーマを「新プランの重点に位置づけるべき施策について」特に資料3と5を参考に検討ということで協議を行っていただきたいと思います。資料5については、現行の計画の施策体系が載っております。1点ちょっと補足説明をさせていただきたいと思います。今、そちらを見ていただくと、No.199から223の部分が赤字になっているかと思
大村委員長	
事務局・多治見	

大村委員長	います。こちらについては、スポーツ課の施策になります。スポーツ課については、先ほど少し触れたんですけども、教育振興基本計画と同時並行という感じで、スポーツ推進計画についても策定に向けて準備を進めております。この赤い文字は既に、そちらの計画のほうで決まってくる内容になりますので、一応御意見はいただくんですけども基本的には変更をしていかないものにはなりますので、見ていただいて、何か感想とか質問等があれば、スポーツ課の職員に聞いていただけたらと思っております。それから、それ以外の部分につきましては、今日それぞれのグループにおいて、もっとこれが今後必要な施策ではないかとか、今求められているものはこういう取組ではないかということで、御意見をいただきたいと思っております。先ほどの資料3の内容をこちらに一応反映させているつもりなので、先ほど申し上げた、「検討」「削除」「見直し」「充実」「継続」とかいった言葉が入っているかと思います。また、今の計画の重点になっているものも、重点1とか、重点3という感じで入れさせていただきますので、これを継続させていくべきかというところであったり、担当はこう書いているけど、やはり必要じゃないのかといったことであったり等を協議していただけたらなと思っております。 それでは、この後の流れについて説明させていただきます。 お座りになっている座席のメンバーで40分間話をさせていただきたいと思っております。40分間の協議を終えた後後に、指導主事のほうが、ホワイトボードに話合いの内容をまとめますので、各グループで話し合った内容について、情報を共有出来たらなと思っております。よろしくお願いします。 ご説明ありがとうございました。 それでは、ただいまから休憩をとったのち、グループ協議を始めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
新美教育部参事 山岡委員	<Aグループ協議> 教育部参事の新美です。よろしくお願いします。先ほど説明があったように、基本的には資料5の1、2ページを中心にまず進めていきたいと思っております。左に番号が1～38までありますが1つ1つ確認していくと時間がかかるので、実施施策のまとまりごとで見ていきたいと思っております。 まず、番号1～4の「みんなで育てるみよしっ子」の充実と周知啓発について。細かい取り組みは右に載っており、それぞれ重点プラスワンのところにあてはまります。まずこの4項目についてご意見がありましたらお願いします。 質問なんですけど、1番の「親子で取り組む実践目標」の設定と周知啓発パンフレットの作成・配布について、これはパンフレット（リーフレット）の作成と配布をしているだけということですよね。親子で取り組む何か行動を起こす事業とかは何かされてますか。

新美教育部参事 山岡委員	詳しいというかそこまで載せてないと思います。その辺が曖昧なので、実際に何かあれば良いと思う。 今回の見直し案にリーフレットを就学時健診に年長園児を対象に説明・配布とありますが、こどもが対象で今回の就学児健診に行ったが、これがあったかどうか記憶にもない。やはり認知があまりない。こういう会議に出ているにもかかわらず。
新美教育部参事 岡田委員	いろいろなものが配られていると思うけれども。 そういうところもあるかもしれないですけど、私のこどもの小学校では、ちょっと説明されてたので記憶にあるんですけど。
新美教育部参事	周知をするにしても、もう少し説明を加えるだとか、もう少し見ていただく方の心に残るような周知の仕方が必要。そういう意味では改善が必要。今のままでは認知度、こういうものがあるということを知っている人が数値として上がっていかない。改善していなければいけない。ありがとうございます。
岡田委員 長谷川学校教育課主幹	これはモバイルとは繋がってないんですか。 就学時健診で配らせていただいて教育委員会からのご挨拶の中で、リーフレットについて話をしている。
新美教育部参事	絆メールがあるが、就学時健診のときに小中学校で使う配信サービスについて説明があり、登録をお願いするが、そこで初めて紹介される。そこは検討させていただきます。
岡田委員	絆メールを見ているが文字をクリックするまでいかないのかな。でも三好のLINEを登録していて、それだと絵で出てくるので、パッと見、読んでみようって思ってクリックするので、LINEに載せた方が、もしかしたら興味が湧くのかなと思う。
岡田教育部次長兼 学校教育課長 新美教育部参事	LINEは友達登録している中に対象になる人がどれくらいいるのか分からない。全市民が対象になる。 絆メールも登録必須とは言えないが、たくさんの情報が絆メールで届く。学年便りや給食の献立など、メールでしか送らない学校も増えてきているので、登録しないと学校の情報が得られなくなってきている現実があるのでほとんどの人が登録しているがLINEにはそこまでの強制力がない。ただ、見た目としてはLINEの方が良いのかもしれない。絆メールは文字だけなので。この辺りも改善やたくさんの課題があると思います。他にはどうですか。
大村委員長	一つ目のところに入るかどうかというのはちょっとわかりませんが、みんなで育てるみよしっ子の、みんなで育てるっていうのをどう実現していくのかっていうところで、1990年代にね、子育ての孤立化が問題として浮かび上がってきて、地域の中で婦人会とかそうした地域の女性たちの繋がりがなくなっていった、その子育てを支え合う地域のシステムがなくなったときにどうするんだということで、子育てサークルを作っていきましょうっていうね、そういった政策が打ち出

新美教育部参事	されて保健センターであるとか、公民館であるとか、そういうところが親仲間をつくる、それを支援してきたんですよね。ところが子育てサークルがなかなか今できないっていう、そういうことになってくると子育ての孤立化が止まらない。どうやってその孤立を防ぐのかっていう、それに対する施策はどこに入るんだろうか。
大村委員長	子育てにご苦労されていると思う方々が集まって、ああでもないこうでもないという話が出来るとそんな場があると良いということですよ。
新美教育部参事 林委員	例えば、おやじの会ってみよしもありますよね。大体でも小学校に上がってからですよ。乳幼児の段階でおやじの会があった方がいいんですよ。特に男性の育休も取られるようになって、男性（お父さん）の悩みも結構いろいろ多様化してきてるし、でもそのお父さんの悩みを話せる場所がない。だからそういう親仲間を早いうちから作っていく、そういう支援が必要かなと思う。
新美教育部参事 林委員	先生何かありますか。そういった取り組みは。
大村委員長	今本当にお父さんたちが集まってくる会は市民センターの総合の中でやっている土曜日のパパと遊ぼうという企画が好評で回数を増やそうとしている。これは何年も前から実施している。男性保育士が企画して、前に立つ保育士も男性の方がお父さんも来やすいだろうっていうところから、男性保育士を派遣していた。それから支援センターの職員に代わり、今は民間委託している。土曜日・日曜日はお父さんと一緒に来る親子さんが多くなって、お父さんたちをもっと取り込もうとしている。女性ばかりのママたちの中で来れるパパもいるんですけど、やっぱり今日はお父さんたちが集まる日だよっていうと、集まりやすくなっています。
林委員	それも大事ですよ。それってこどもの0歳～1歳から開いてますか。
大村委員長	もう年齢関係なく。
大村委員長 林委員	もう少し年齢区切ってやった方がいいんじゃないかな。
大村委員長	同じ年齢のパパとお子さんが集まってくる。市内の保育園でプール掃除とかあったりしたときに、ボランティアを募ってやってる園もあるんです。そうするとそこでお父さんたちが出てきてすごくやってもらってるよっていうような話があるので、そういうのがもうちょっと保育園側から何かうまく発信して広げていけたらなっていうのがちょっと思っていて、ちょっとここなら近いうちにできたらなっていう自分の中ではあったのできつとそういうことも一つになってくるのかなっていうのは、お話を聞いて思った。
大村委員長	そうだと思います。僕も共同保育所から、認可保育所で学童保育っていうふうにお世話になってきたんですけど、特に共同保育所とかは親が経営しなくちゃいけないっていうこともあって大体毎月集まっていて、大掃除もみんなが出てきて掃除をして危険箇所とかそれをみんなでチェックしてってい

	う、そういう集まりがあって同時にその集まりしたあとみんなでお茶したりお酒飲んだりとか、そういう中で仲間作りをした。そうやって集まると、自分のこどもだけじゃなくて他のこどもがどう育っていくかっていうのもよくわかるので、育ち方あるいは育て方の見通しが作れるっていうのが非常に力になるかなって思いがあって、ですからそういったボランティアの機会なんかもとっても大事だと思いますし、出てきたところを捕まえて話をすると後みんなで楽しむ時間を作るとか、そういったことを行政といいますかね、あるいは園の方で支援していただけるととてもいいんじゃないかと思います。
山岡委員	父母の会を今年やっていて、そういった父母会やPTAがどんどん縮小されて保護者が出てくる機会が減っている。父母会をやると、父母会のお母さんとかお父さんとギュッと仲良くなるので、そういう機会は大事で、だから同じことだと思う。
大村委員長	例えばボランティアとか作るとそこでそういうコミュニティができて。家庭の事情を見すぎて、祖父母参観がなくなったり、父の日参観が保護者参観に代わって1回しかなかったりとか、その時代はちょっと変わってきている。多様性でいろんな家庭があって当たり前だから、名前が変わっても良いけど、だからと言って回数を減らしたり無くしたりするではなくて、なんかもうちょっと上手に新しい段階に変えていかないと、保護者のことを助けすぎていて、全部保育士さんや学校側に負担がいて、保護者も任せっきりで親は不参加が増えてきている感じがする。もっと溶け込んで良いと思う。
新美教育部参事	PTAとか子供会なんかと同じことがあって、出なくていいとか抜けてしまえば楽は楽なんだけどでも孤立は深まってしまったり不安感もやっぱ出てくると思う。やっぱり気軽に相談できるそういう親仲間がいるかどうかってとっても大事だと思うので、そういう親仲間も大事ですよっていう宣伝・周知もしてほしい。 実際お父さんとか父親なんか集まってもなかなか話が最初できなかったりする。だからそこら辺は実は保育士さんとか幼稚園の先生がちょっと間を繋いでもらえるととってもいいですね。そういう支援が本当ありがたいと思います。 学校の方もその先に言われたPTAのあり方というのはすごく見直しをされている。やっぱり言われるように、だんだんその保護者の方と学校とでその溝というか、先ほど話した学校運営協議会ということでコミュニティ・スクールが進められている。市内でいうと11校はそういう会の設立ができています。地域の一部の人がちょっと窓口になって、学校とその保護者の方が我々繋ぐ役の人が今できている。やってることは、そういう意味では変わらないんですけども、例えば授業のサポートをしてほしい、だから一緒にやりませんかというような、要するに学校だけでなく保護者の方が地域の方々と一緒にこどもたちを育てるための会ですからそういう形でちょっ

大村委員長	と形は変わりつつ学校と地域保護者との繋がりとは検知して るって言い方を大切にしていきたいという状況があるよう な今進められる。なかなか難しいですね新しいことをやるっ ていうこと自体が。
新美教育部参事 林委員	地域学校協働やコミュニティ・スクールは学校に上がつて からの参加になっちゃうので、そういうところが就学前まで に繋がっていくとありがたいですね。そうすると小学校に上 がるときの不安感なんかも解消できたりするし、どんな先生 がいるんだとかどんな学校ことやってるんだっていうことが わかることは、小学校一年生のショックをなるべく小さくで きるわけですね。だからそういう地域学校協働が中学生ま で、乳幼児まで視野を広げてもらえるといいですね。
大村委員長	そうですね。ありがとうございます。 今年三吉小学校の学校運営委員会にも参加させていただ いてるんですけど、そこでやっぱりコーディネーターの方々に ちょっと依頼をかけて、地域と繋がるように保育園にも声を かけて、地域の方の老人交流みたいな形で行うことができ たりとか、学校との交流も今まで大体就学前に1回くらい各学 校お邪魔させていただいてたんですけど、今年度4回行かせ てもらって、行事を見させてもらったりとか授業風景見させ てもらったりとか、今度は3月になるんですけど、同じ学校に 行くなかよし保育園じゃないんですけど、一緒に学校でドッ ジボールをさせてもらい、コーディネーターさんとか学校に 協力いただいて、ちょっと地域と繋がれるようになっていう ところで今ちょっとずつ進めはさせていただいてるかなとは思 ってはいるんですけど、それがもっと何かいろいろ工夫し ながら広がっていけたらと感じています。
新美教育部参事 長谷川学校教育課主幹	幼保小の繋がりをどう作っていくか。なんかちょっと形が あるといい。それぞれの先生方の個別の取り組みじゃなくて、 市として何かそれを何かやってるよっていうのがあるとい いですね。
新美教育部参事	スタートカリキュラムを4月からやる予定ですね。 そうですね。スタートカリキュラムは令和7年度から作成し て学校でちょっとモデル的にやっていただくんですけど、そ れに当たって今年度小学校の先生に幼稚園保育園に終日・半 日いかせていただいて本当に一緒にこどもたちや先生と一緒 に過ごさせていただく中でお子さんの様子を知るっていうこ とで、教員の方も本当にやっぱりすごく勉強させていただ いたところもありまして、すごく良かったっていう声を 受けて、来年度は幼稚園保育園、小学校との繋がりそれから 小学校と中学校の子の繋がりで同じようなことをしてそれ ぞれ保育園の先生にも小学校に来ていただくようにどんなふ うにこどもたちが生活しているのかっていうのをじっくり 知っていただけたらなというところを計画している。
新美教育部参事	小から中の連携は強かったと思う、幼稚園保育園と小学校 もやってはいたんですけども、やっぱりちょっともっともっ

	と深い繋がりという深い連携をしていくことで、その園児に上がったときの不安を少しでもね、楽しみな人も多いと思うんですけど、やっぱり新しいところ不安だとか緊張とかするときはたくさんいるもんですから、そういった子たちが安心して小学校に入学できるようになっていうことを大切に取り組を進めているところです。
大村委員長	あとその隙間って言いますかね。幼稚園保育所に行っていないこどもと、それから療育、障害を持ってるこどもが繋がる
新美教育部参事	いいですよ。これ何か仕組みないですかね。
大村委員長	そうですね、就園していない子についてですか。
	今ブックスタートとかやっていますか。保育所で。保育所幼稚園に行っていないこどもへのブックスタートってどうしていますか。
本松保育課長	相談課で赤ちゃん訪問とか教育支援訪問だとか、そういうところに本やおもちゃなどを持っておうちの中に入っていったところはあるですね。
大村委員長	家庭訪問をやってらっしゃるんですね。
本松保育課長	家庭訪問をやっています。今、みよしは出生率がすごく下がってきて、保育園入園が加速して0歳児1歳児ですね、1歳児2歳児は半分のお子さんが保育園に入ってる状況です。0歳児はもう30%ぐらいのお子さんが入っている状況なので、その他のお子さんはやっぱり先ほどお話したみたいに、支援センターの方がやはりお母さんたちが来ていただける集いの場所になっていると思うので、支援センターの充実というところで、やっぱり親御さんがお子さんを連れて来やすい場所、行って楽しかったなと思っていただけないとやっぱり続かないと思うので、そこがちょっと一番のこれからの課題かなと感じている。
新美教育部参事	そこはなかなかチェックしきれてなかったところがあったかもしれない。今の大村先生のご意見で何とかそこをきちんとすくって、拾って支援ができる手を、それこそ振興基本計画の一つ重点としては必要かなっていうふうに感じました。
	それ以外にも次の5番6番7番の支援センターの交流・相談活動の推進は削除というか継続みたいな形で全く無関係というわけではないんですよ。
本松保育課長	この取り組み自体の目標は達成できたというところになるので、相談窓口だとか、ふれあい広場の設置っていうところに関してはもう設置済みなので、この取り組み目標に関しては達成したということなので、主な取り組みは達成できた。
新美教育部参事	なくなるわけではなく継続はするんだけど、重点としては外してもいいかな。ということですよ。
本松保育課長	そういうことですね。この取り組みは達成できているので新たな取り組みをまたここに入れてそれをということであれば。
新美教育部参事	5番6番7番とも、達成してるっていうこと。
大村委員長	場所として、ふれあい広場が2箇所、あとは乳幼児が行け

本松保育課長	る場所っていうのはありますか。
大村委員長	地区の支援センターですね。
本松保育課長	どこにあるんですか。
大村委員長	3か所あります。
本松保育課長	そうすると、小学校区に1つぐらいある？
岡田委員	北・中・南という感じ。
	児童館があつてそこは0歳児を連れて行けるので、そういう意味ではあるのかな。
大村委員長	児童館にはそういう支援者いますか。乳幼児向けの。
本松保育課長	構成員さんが。
大村委員長	構成員は全児童ですよ。
本松保育課長	そうですね。あとは月に何回か支援センターの職員が児童館に行かせてもらって、なので毎日ではないですね。
岡田委員	おもちゃもやっぱり支援センターと比べると…そこでちょっと集まるにはちょうどいいかなっていう気分なので。午後になると小学生がいっぱい来ちゃうので、午前中。
大村委員長	そういう児童館がね、本当に012といいですか、そういう小さい子のための場所として機能していくためにやっぱりそのおもちゃの整備とかあとハードの面もありますよね。ぶつかったら危ないとかね。だからそういう整備をしていくっていうのは入らないですか、ここには。児童館が、乳幼児にとって安全・安心な場所になっていけばかなり、行ける場所が広がるだろうと。
新美教育部参事	増えますよね。近くにもありますし。
大村委員長	やっぱり小学生用の作りだと、乳幼児に危なかったりするんですよ。
新美教育部参事	全部は難しいが、よくコーナーになっている場がある、ソファーとか置いてある。ああいう一角があつてもいいかもしれない。
岡田委員	あつたような気がします。10年ぐらい前の記憶なんですけど。
山岡委員	ふれあいセンターは小学生も乳幼児も行けるんですけど、何となく絨毯があるところで乳幼児が遊べる。もちろんそこで小学生も遊べるし、体育館風にボール遊びができるエリアと別れているから、上の子も下の子も連れていけるけど、駅の支援センターは未就学児しか入れないじゃないですか。そうすると、上の子が連れていけない。
本松保育課長	今年度からご兄弟はOKになりました。
山岡委員	そうなんですね。でも上の子はそこで走り回れないし危ないですよ。ふれあいセンターは良いと思う。敷地内でも外でも遊べるようになっていっているので、モデルとしてすごく良いと思う。
新美教育部参事	支援センターはあるんだけど、そこはそこで当然いいんだけど、もっと身近なところでみんな活用できるところでそういう乳幼児とかものびのび活動できるような場所があると良いなって話ですね。

大村委員長	児童館というのは結構伸びしろがある施設かなと思っていて、今まで最初は小学生向けの施設だったと思いますけどもそういう子育て支援ですね。乳幼児を含むと若い親若くなくてもいいんですけど、親がそこで支援される場から中高生の支援もそこでできるとこどもがずっと育っていて若い親まで児童館でいろんな支援が受けられるってそういう場所になれるはずなんです。ただそのためにやっぱりハードであの場所を今こどもが走り回れるかどうかでもありましたけども、いろんな発達段階のこどもがいて、やっぱりゾーニングがやっぱり大事で、安全ハードを整えるということと、それからその支援ができるスタッフ、人的配置がやっぱり必要になってくるのでだから正規の職員が足りなければNPOとか、あるいはボランティアの養成をしてその見守りができるようなそういった体制があるとそういう児童館が居場所として、みんなが利用できるようになっていくかなと思うんですけどね。やっぱりこどもが小さいと車で行ければいいですけども、そうでないとやっぱり地域で行ける場所がないとちょっとつらいですね。
新美教育部参事	ありがとうございます。 次のよつばの関係10番、11番、これも一応目的の方は今のところは達成しているっていう捉えて良かったですか。これも引き続き続けていくことになると思います。
大村委員長	相談機能はどうですか、何か月待ちとかになってないですか。それは大丈夫ですか。
本松保育課長	診察のことですか。
大村委員長	診断の相談です。
本松保育課長	診断は1年半から2年ぐらいは。
大村委員長	何とかありませんかね。
本松保育課長	その辺りは発達センターと相談しながら子どもの児童精神の医師だけではなく小児科医も診察できるように…長期的な課題です。
新美教育部参事	いろいろなジャンルで相談があるので難しい。発達センターの待ちは長い。
大村委員長	あと外国ルーツの親子への通訳支援っていうのはされてます。発達支援のところ。
本松保育課長	今、園では通訳はスマホやアプリでやり取りもできればあれですけど、懇談会などきちんとニュアンスが伝わらないときは市民課に通訳の方がいるので、時間を取ってやりました。よつばに関しは通訳の予算を取っているいます。
大村委員長	保育園はまだ難しい？
林委員	保育園も一応予算は取っているけど、必要に応じて市民課の方を予約している。
大村委員長	あまり知られていないですか。せっかく支援サービス作ったら利用できると良い。
林委員	頻繁にはできないので、園の中ではアプリで今はやってもらっている。アプリで発達支援が必要なお子さんに関しては

大村委員長 新美教育部参事	園で面談はするが、なかなかニュアンスが難しかったり、行き違いがあつたりするようなときは、保育園に頼んでそういう時間を設けてもらうことは可能です。そういう方が増えてきている。 そうなんです。外国ルーツの人たちも、支援学校の生徒も増えてますし、多分そういった発達診断を受けてない外国ルーツのこどもたちかなりいるんじゃないかと思うんですよね。
大村委員長 新美教育部参事	そうですね。人数は増えています。外国ルーツをもつ家庭が。小中学校でも通訳をいつも気楽に頼めるところがあると良いが、常駐してもらってもいつも必要というわけではないから。小中学校でも通訳は同じように予約をして懇談会などに来てもらっている。 ありがとうございます。次の児童虐待の防止について、件数が増えていますね。
大村委員長 新美教育部参事	愛知県全体では増えてますね。 これは子育ての方から通報が入ってくると思うので通報をもとにすぐに職員が出向いて状況を確認したりなど続けていく。その下の奨学金関係は継続だけど、廃止は達成済なので同じ。21・22の保育環境の整備についても達成している。 23・24のこの2つも達成している。25番から、25・26・27の放課後児童クラブによる子育て支援の拡充について。 25は充実とあるが、継続をお願いします。対象年齢が小学6年生までですすでに受け入れをして達成している。
西世古学校教育課主幹 大村委員長	今あれですか。それぞれの小学校で受け入れ可能になりましたか。移動しなくてもOKですか。 待機が出ているところもありますが、小学校全てで開いている。
西世古学校教育課主幹 新美教育部参事	その下のファミリーサポートセンターでの市民の相互扶助の推進、これも基本達成している。30の小学校自主登校教室による子育て家庭の支援も達成。31・32の家庭の教育力向上のための啓発活動の推進。はぐくみの発行と親子ガイドブックの作成と配布。はぐくみは継続。さっき話した配信の仕方は今のニーズに合った形に検討していく。ガイドブックははぐくみのことなので31・32は同じということですね。次の33・34、困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実、市の教育センターに学びの森という小中学校に足が向かない子が通える教室やそこに臨床心理士の専門相談員が居て、0歳～18歳までを対象に子育てや学校のことなどお家の方の困りごとを相談できる機関があるが、認知度がまだまだ低い。相談員の人数も少しずつ増やして、平日朝から夕方まで対応ができるようになっているので、困っている方の支援としてアピール・周知していく必要がある。
大村委員長 新美教育部参事	教育支援センターはいわゆる不登校のこどもへの支援もやってますよね。居場所もやってますか。 そうですね。はい。

大村委員長 新美教育部参事	それを各学校でやるっていうことは考えてないですか。 それもちよつとずつ動き始めていてですね、校内フリースクールこれを中学校では完全に位置づけていて、学校に行けるんだけど、なかなか教室に行けない子を支援するフリースクールの部屋を用意して先生もいて、自分たちがやれることや勉強や興味あることをやる。令和7年度からは小学校でもそういった支援できるような教員（非常勤）を配置します。ただ場所的に教室に余裕があるところはいいんですけど、余裕がないところは保健室などを利用。こどもたちがこの学校に来た時にきちんと出迎えて、学校での居場所になるような形を整えていくことを始めていきたいと思います。
大村委員長 新美教育部参事	中学校はもう全校ができてきてるんですね。それはここには入らないですね。この項目には。 そうですね。次の35・36、家庭教育に関する学習機会の充実は引き続き、保護者の方々への少しでも支援に繋がると思っています。最後、ふれあいトライアングルについても継続で。
大村委員長 新美教育部参事	あとついでにさっきの困難さを抱える家庭に対する支援のところで学習支援っていうのは今どれぐらいやってるんでしたか。みよし市は。 例えば学びの森ですと教員免許を持った人が1人、個別に支援員さんが4人。一斉授業の形ではないので、自分でカリキュラムを作るような感じ。
大村委員長 新美教育部参事	それは学校に行っていない子ですよ。学校に行ってる子に対する学習支援。 できるだけ一斉授業とは言うものの、できない子については個別の一对一で出来るような支援が必要と思ってるので、県の教員だけでは足りないので市と非常勤講師など。小学校では35人上限だが、みよし市では1・2年生では30人で換算をして、その分教員を投入して、少しでも少人数の指導ができるような取組をしている。外国のルーツを持つ子もいるので、日本語が分からない子もいるので校内でも日本語指導が行える、個別の授業を飛び出して日本語を教えるそういう先生も全校に配置をして個別のニーズに応えられるような配置を進めているところです。まだまだ100%完全とは言えないですけどそれを少しずつ拡充していったその子に応じた学習支援ができるように整えていきたい。
大村委員長 新美教育部参事	文部科学省の補助金で地域の未来塾、これは多分みよしは夏休みと冬休みやってるんですよね。それを普段もやって宿題がなかなかできないとかわかんないとかっていう子たちがそこで勉強できるような、そういうことをやってる市町もあるんですよ。文科省がやってるのは誰でも行けるもんだし、あと厚労省がやってるのは、1人親家庭と生活困窮家庭のこどもたちへの学習支援もやってるんですけども、多分みよしはそっちの方はやってないですよ。 市としてはそうですね。

岡田教育部次長兼 学校教育課長 大村委員長 新美教育部参事	NPO法人に委託して市で1か所。やってもらっています。 それはその必要なこどもがね、行けるようになってるかってのいうことがちょっと気になる場所ですよ。それもここに入るのかなと思ってたんですけど。 そうですね。ありがとうございます。今日はこれでおしまいなんですけども、もう1年かけてより固めていき、令和8年度スタートの振興基本計画にしていく予定でありますから、今日の資料を読み返してこれもあつて欲しいっていうことがありましたら、また遠慮なく学校教育課に連絡をいただければと思います。よろしくお願いします。どうもありがとうございました。
事務局・多治見 黒田委員 事務局・多治見 都築副委員長 清水委員	<Bグループ協議> それではBグループの協議を始めます。お願いします。 先ほど指定したページを主に見ていただいて、もうどこからでもいいですので、今感じていらっしゃるところでこういう教育でやっぱり本腰を入れてほしいとかいった部分が教えていただけるとありがたいなと思います。発言の際にはまたこれ近づいていただいて、名前を最初に言っていてからご発言いただくと大変助かります。いかがでしょうか。 この下から3番目の(51)緊急時におけるこどもたちの学びを保障するための学習指導員の配置というのが、削除となったが一体何が削除されるのかよくわからない。配置が削除されてしまうのか。 はい、緊急時は多分コロナのときの話ですけど、印刷をしたり、何か雑務的な業務をしたりするために人の配置が県からついてたと思うんですけど、今となつては、緊急時の事業を特に掲げなくてもいいんじゃないかという意味で削除ということになっています。 どこっていうことはないんですけども、学力向上にもなるし新学習指導要領、これで折り返し地点あと5年というところで、ますます充実期にこれからなっていくと思うんです。一つは、カリキュラムマネジメントで、この間報道にもあったように、年間の学習指導要領で授業時間数というのは定められているけども、ほとんどの学校がすごい多い。本当に多いんです。そういったところも一つ、見直していく改善していく余地はあるのかなって。校長会でも今年話題にしたんですけども来年度以降検討していきましょうということで。 どういうことかっていうと、1週間で29コマもあるんですね。これを例えば28コマにして、そうすれば子供が学校から自宅へ帰って家族と触れ合ったり、習い事をしたりとか、そういう時間も増えるし、教員にとっても、時間数が減れば、それだけ教材研究とかこどもと触れ合うとか、少しでも働き方の改革に繋がるのではないかな。カリキュラムの見直しをしてもいいのではないかな。 それは、必要な数よりもプラスして設定しているものです

	か。絶対にやらなければいけないコマ数プラスやっていると いうことですか。 そうです。何が多いかっていうと、要は学級活動、総合とか行事のための準備や練習の時間がどうしてもやっぱり取られる。小学校だと割と時間割って担任レベルで変えられる。今週、算数少ないからちょっと増やそうとか、中学校だと時間割って決まっているので、どうしてもそこら辺の融通がなかなか取りにくい。標準時数は1年間で35週間と決まっている。大体35週間かける年間の例えば算数とか理科とか、数学とか年間標準時間数が140時間とか130時間って決まってるんだよね。それはクリアしても、さらに学級活動が多い。そういう現状があります。
都築副委員長	
事務局・多治見	それはなかなか学校単位では進めづらいから、学校に任せるのではなく、市として何か方針として出して欲しいという感覚ですか。
都築副委員長	本当は学校が決めていい。それは各学校で決めればいいわけだから、例えばモデル案を出してもらったんですけど1回は、市からね。ちょっと現実とはかけ離れているから、もう少し実際に即した形で検討はしていくのがいいのかなという意見です。
事務局・多治見 丹羽委員	丹羽先生どうですか。モデル案を見られて現実には。 モデル案はすぐに行うのは無理で、例えば育児短時間勤務の先生とか、実非常勤の先生とかの勤務時間の関係で、1時間目のスタートが小学校案だと8時35分ぐらいにスタートだが、そこにお母さん先生が間に合うのは無理なので、我々が持っている権利と何とか働きやすい環境を整えたいっていう思いと、今はちょっといい塩梅が見つからないのが現状です。
都築副委員長	検討はしていく、それこそ、例えばもう小学校を今45分授業なんですけど40分にする、中学校は50分だけど45分にする、それで年間やってみて、後の5分のトータル30分をどこかで産み出すとか。いろいろなマネジメントの仕方があるので、それは各学校で最終的に決めればいいんだけど、やっぱり市内の学校数もそんな多いわけじゃないので、いろいろ検討して、市でもいろいろもらいながら取り組んで検討していければいいかな。
事務局・多治見	今、作戦の11だったかなと少人数学級とか教科担任制を進めようとしてきたが、これについてはどうお考えですか。
都築副委員長	小学校は高学年から、学年担任制とか教科担任制っていうのをやってみて、実際どうでしょうか。
丹羽委員	そうですね、まず時間割を組む上で、なかなか難しいところもある。確かに高学年の担任の空き時間が増えるのは大変ありがたいが、まず時間割が組みにくい。今うちは理科を見てもらってるが、理科の授業がしたい担任もいる。そうすると、その先生はうちの学校にいる限り、理科の授業ができない、自分は理科の専門なのにできない、そのくせ理科の仕事がいろいろ市からとか西三から回ってきて、なかなかそ

	れはかわいそうだなというのが現状。そしてこれはうちだけかもしれないですけども、そういう高学年専科みたいな担任じゃないところに人気集中します。担任がやりたくないっていう。いろいろなクレームが来るし、大変だから。一生懸命やっている担任の先生が、自分って馬鹿みたいだなって思うようなことは絶対にさせたくないの、制度はありがたいけど、弊害が確かにあります。
都築副委員長	他の学校でも体育の専科が置かれていると、小学校でも、小学校の免許があるが自分は体育が専門だという人がいても、体育の授業はその専科の先生に任して実際には自分は体育の授業はできない。体育主任で何か仕事をしなければいけないとなれと言うことが起きます。
事務局・多治見	学校訪問とかもなかなかそこが難しいところですね。担当してないのに何かチャレンジしないといけない。中学校だと、30人学級のお話があったんですけど、やはり中学校は必要ですか。
黒田委員	絶対に必要だと思う。もっと少なくともいいかなと思って。もっと人数少なくやっていった方が絶対しっかり見れると思う。今本当に勉強がついていけなくなって、学校行きたくないですっていう生徒が多くて、特に中1なんかは最初頑張ってるんだけど、だんだん勉強難しくなってきた、ちょっと学校行きたくないっていうような子もいるので、そういう子たちをしっかりと面倒見てあげられるといいかなと。数学でTとかで入ってもらって、ちょっと少人数で分けたりとかしているんだけど、やっぱり数学だけだけど、難しいところもあると思うので、それがいろんな教科に、特に英語がもう二極化になっているので、小学校でも英語嫌いになっちゃって入ってきているので、もう英語をやりたくないっていうそれでスタートしてると本当にそういう子たちが多くて救ってあげられなくて、だからそういう子を手厚く見てあげるためには、やっぱり教員がいないといけないし、そういう難しさがあります。
都築副委員長	それに付け加えて、やっぱりさっき英語のALTとか英語教育とか出たけれども、外国語活動が小学校で始まりました英語はある程度コミュニケーション中心にやっています。昔は英語っていうのが子どもたちにとっては中学校に入って初めての英語で新鮮だったが、やっぱり外国語活動をやってきて、英語でコミュニケーションするとか英語が好きな子もいれば、やはり嫌いになっちゃう子もいるんですよね。だからもっと教員間で何もないから中学校の英語の先生が小学校の外国語活動の様子を見たりとか、外国語活動の先生が中学校の見たりとか、もっとそういう共有をして、いかに英語教育をやっていくか。数学でも二極化って言ったけど、どの教科でも二極化が起こる。習い事をさせる、塾にいかせる家庭もあれば、中にはそういう親が学校の宿題いりませんって言う。逆にもっと宿題出してほしいっていうのもあるんです現実、実際

	こどもが本当に家庭学習でどれぐらいできるのか、小学校でも中学校でも。そこらへんがちょっと、どれぐらい出せばいいのか、あんまりたくさん出しても負担になっちゃうし、なしならなしでもっと出せって言うし。
清水委員	こどもによると思うし、家庭の方針もあると思う。割と何でも真面目に取り組む子は多すぎず少なすぎずで良いかなと思う。言ってもなかなかやらない子は少なめで良いと思う。宿題が多いだけでやる気がまったくなくなってしまう。小学校のうちは、学校で出されるものを最低限やれば良いっていう方針で宿題のみ。なしだと親が設定するのを嫌がりそうなので、宿題はあってはほしい。強いる必要はない。足りないと思えば親が努力させる。
丹羽委員	昔と比べたら家庭学習の習慣が身に付いてるこどもが割と少なくなってきたているのかな。
清水委員	数年前よりもスマホとかそういうものの普及率が上がっていると思うので、それに費やしてしまう時間が家でも多いと思うので勉強時間はどんどん減っちゃっていると思います。
都築副委員長	我々のこども時代とは全然、世の中とかは違うからもっと親の家庭教育をちょっと充実するといいなと思うんですけどね。学校が言っても学校批判に繋がりがかねない部分があります。
清水委員	やりなさいと言ってやれば良いんですけど、小学校の内は割と素直なので結構やるんですけど、中学校になると、絶対にやらない子が増えてくる。
都築副委員長	家庭教育の方針ってそれぞれ親によってどの家庭でも違うんですけど、それは当たり前なんですよ。
清水委員	そうですね、だいぶ違いますよね。進路付近だと割と親が先走って心配して、塾行く。だからと言って親が決めていかせても、そうは身に付いていないと思います。
事務局・多治見 黒田委員	中学校は、毎日課題はないですよ。
事務局・多治見 都築副委員長	各教科から出てる宿題ですから、だから毎日何かがあるっていうわけじゃないかもしれないし、テスト前にちょっと多めに出るかもしれないし。
事務局・多治見 都築副委員長	ある程度自分で考えてやりなさいってところですよね。
事務局・多治見	問題集とかも授業で習ったときに、テスト前に出るからちょっとずつ進めようっていうのは多分どの教科も言ってると思うんですけど、そういうのをちょっとずつ自分でやれるかどうか、いついつまでに提出しなさいねっていうのが一覧表で年間分が出ているので、その日までにはしっかりやれるようにこどもたちが自分で取り組んでいくっていうところ。
事務局・多治見	今後、そのこどもたちが受身じゃなくて、自分で考えてそろそろやらなければいけないとかそういう力をつけさせたいですよ。
清水委員	それはでも、周りが言ったからって、なかなかそういうふうになるわけではなくて、個人差がものすごくあって、小学校のうちから真面目にできる子もいれば、高校になってやっ

事務局・多治見	と始める子もいる。うちの場合も下の子が全然やらなくて困ったんですけど、先生があんまり急かさずに気長に待ってくれたので、本人も追い立てられるんじゃないくて、自分のペースで少しずつでもやろうって思えて、先生がこどもの特性を考えて対応してくれたからすごくありがたかった。 そうやって1人1人に合った支援というかそういった部分で、今後の計画ではちょっと課題になっているところもあり、何か特に外国の子たちもたくさん住んでみえる学校の先生方なので、何か個別に配慮していると何かやっていけるというような取組ってありますか。
丹羽委員	例えば7ページの121番に30人学級を視野に入れたやつありますよね。実際に勉強する低学年が61人を超えれば1人加配がいただけますよね。それで2クラスに1人の副担みたいな使い方を今しなさいっていう指示だと思うんですけども、それを3クラスにさせてもらえるととってもありがたくて、さっきも言った通り、このやってる副担ポストに人气が殺到するんです。
事務局・多治見 丹羽委員	担任と担任ではないかでだいぶ違うということですね。 それは全然違いますよね。そういう副担的な仕事をしたことがないのでよくわかりませんけど。
事務局・多治見 丹羽委員	それはやはり何かあったときに動ける先生がいてほしいっていう意味でつけているんですよ。 つけていただけてますよね。そんなんだったらもう最初からね20人ずつのクラスが3クラスあった方が良くかなって思いますよね。
事務局・多治見 丹羽委員	小学校だとそういう感じの考え方の先生が出てしまうということですね。中学校で副担が当たり前な感じがあるんじゃないですか。 中学校では、副担希望で副担が多すぎて困ることはないですか。
都築副委員長	現実問題やっぱありますよね。私ぜひ担任やりたいですっていう方もいるんですけども、担任はちょっと難しいので副担でと、担任を避ける傾向がある。避けなくていいのに。担任こそ楽しいのになって自分は過去の経験から思うんですけど。
黒田委員	自分でもそうですね。だから担任はやりたい人が多いかなと思ってるんだけど、そんなに副担がいいっていう人はいないかな。僕は聞いてないだけかもしれない。知らないかもしれないですね。
事務局・多治見 丹羽委員	その辺については、何だろう。働き方とか魅力的な何かとかいう話になっていくんですかね。そういう考え方が増えてしまうのは寂しいですよ。
都築副委員長 事務局・多治見	いろいろ加配をいただけてますが、1クラスの人数が減って担任が増える方向で動いていただけるとありがたいです。 外国籍児童生徒支援っていう枠ってありましたか。 ないかもしれないですね。

都築副委員長	通訳ね。日本語指導も入れ替わりでやっているだろうし、やはりコミュニケーションが本当に通訳みたいな人がいると本当によくわかる。中学生でもそばにいてね、ポルトガル語を話すとすごい仲良さそうに話すわけよ。もう自分はわからないけどさ。そういうのも奪わないようにしたいよね。あと、やはり不登校とか居場所作り、本当に大事だと思うんです。本校も不登校が多い。丘組っていうのを作って、1年やって、3年生なって教室に戻れた子も実際います何人か。新たに丘組に入ってきた子もいるし、やっぱりそういう居場所作りっていうのは、学校の中でも大事だし、もう一つ前から言っただけど、学びの森みたいなどころ学校外の施設があると良いと思うんですけど、施設の問題とか予算の問題があるので急には難しいかも知れないけど。学びの森までね、1回行った子がおるんですよ。ずっと引きこもってて、1回行ったけどそれから行けない。やっぱり交通手段がバスに乗ったり、女の子だったのになかなか遠かったりして、学校にはとにかく足が向かないっていう子もいるし、教室には足は向かないけど、学校のそういう場所だったらいいっていう子もいるし、やはりいろいろ居場所、それこそ本当にカフェでもいいと思うんだけど、もうちょっと残って、帰りたくない子にはここ提供するから、こども同士で話してもいいよみたいなものもやっても別に良い。 あともう1個言いたい。部活動の地域移行についてですが、総合型地域スポーツクラブもあるしみよしは、あと部活動の地域移行がもう差し迫っていてこれは本当に難題なんだけど、取り組んでいくと思いますので。
事務局・多治見	活躍の場というか居場所作的なところで、今のどっちも共通するかなと思って聞いていました。
都築副委員長	スポーツに親しむって中学生の頃は本当にプラスになると思うんですよ。そこに教員が関わらないわけでしょ。平日は関わるけど、ゆくゆくはもう部活動顧問の仕事を教員がやらなくなっちゃう時代がもうちょっとしたら来るわけで。こどもなんですよ。スポーツするのは、そこをやはり考えて、どうしていこうかっていうかね、スポーツだけでなく文化的なことこどものやりたいことを学びたいと塾ばかりじゃない、学習ばかりやって、芸術、文化、スポーツ、運動、いろんな面でそこも一つの居場所となると思うんすよね。 だから部活がしたいから学校に来ていた子がいっぱいいたし、朝練があったから遅刻しない子がいっぱいいたけど、今は朝練ないから遅刻しちやったりすることがあるかもしれない。
事務局・多治見	小学校は部活なくなったばかりでどうですか。違いますか。
丹羽委員	近い将来すごい二極化が見られると思います。休み時間のたびに外で遊ぶ子もいれば、一切出ない子もいるので。
都築副委員長	運動能力の低下とか機会もそうだし。二極化はもう目に見

事務局・多治見	えちやうよね。 その子たちは外で何か遊ぶような企画とか何かがあったりはするんですか
丹羽委員	そうですね、今ならスポーツチャレンジinみよしをやらせてもらってますけど、でもそれも強制はできないのでクラスでやるよって声はかけるけど、来なくても別にそれはそれで過ぎていってしまうので、大縄が苦手だからやらないっていう、そんな感じの子もいます。
事務局・多治見	そういう子たちは、室内で過ごしてしまうことになってしまうわけですね。
黒田委員	北中はどうか、部活とかスポーツとか。 部活だけにやっぱり来てる子いますね。不登校で学校の授業は出れないけど、部活だけは出れるっていう子がやっぱりいます、そこは生き生きとして休日もあるようですね。だから居場所だと思う。ものすごく大事だと思っています。土日多分来ると思うんですよ。地域移行になっても仲間がいるし、そのスポーツやりたいから。
清水委員	本当だとやはり先生にやっていただきたい。普段の姿や子どもを知っていてくれる人がやってくれるっていうのは重要で、ここの生活はこうだけど部活ではこうとか、その逆とか。本当に先生にやっていただきたいです。子どもはそっちの方が安心できて、心が安定していると思う。土日は行きたくないという子も出てきちゃうんで。学校が終わった後、公園で遊んでいる子はほとんどいないので、運動不足になっているのかと思います。
丹羽委員	放課後子ども教室の活動内容っていうのはもうおまかせなんです。
山口学校教育課副主幹	一応元々プログラム自体はそういう地域の人たちを使って、サッカーとバスケはちょっと大きくやれる人をみつけてからやるという形になったので、ああいう大きいのとあと地域の人材を活用して選ぶって形で例えばやり取りというのをもうちょっと聞いて、組み込んでいくのであれば調整の中で多分やっていく形なので、逆に言うともどもがこういうのがもしやってほしいよっていうのがあれば、そういう意向があればぜひ教えてほしいと思います。
増岡教育長	子ども教室って単純に最初は作戦2の待機児童対策で、それを作ったら部活をやめにできるかなってことで、部活をやめた。部活のサッカーとバスケ、できれば本当は金管も残したかった。特別プログラムでやろうとしてたけど、実はやってくれる人はそんなになくて、やっていけない現状がよくわかった。理科の実験など子どもが楽しむためにはある程度地域の人がやってくれた方がいいから年間通してやってもらいながら、今掘り起こしを担当にしてもらっているんで、一通りの目途がつくのはこの令和7年ぐらい。令和8年になったら本当に地域の人に頼めるような本来の形にもっていきたいが、まだ産声を上げただけ。だけどこれをうまくやらないと

	潰れてしますと、こどもの体験の場所がなくなるから、計画の中では肝だと思う。
丹羽委員	こども教室の子って第1理科室にいつも閉じ込められて、児童クラブの子がグラウンドを走りまわって。だから保護者はもっと運動させてもらえと思ったっていう思いがあります。
増岡教育長	同じボーリングやとったときはびっくりした。向こうでもこっちも同じことやってるんだよな。これは本当にみんなで作っていかないと。シダックスも前向きではない感じがあるので。
山口学校教育課副主幹	喜んでる感じが全然違うっていうそういうやっぱ予算決まってるっていうボランティアの人を探してっていう中だとちょっとさっき言って時間かけないと多分そういうプログラムを今やりたてだから、今後どんどんそういうのをちょっともう少し精査していけば、もう少し質は上がったと思いますけれども。
増岡教育長	サッカーはクラブチームが頑張っているから、時間が経てばフェードアウトしていけば良い。バスケはなかなかやる子の入口がないもんで、チーム復活した。クラブチームが。そのクラブチームに繋いでいけばそれで良い。もっとこどもが楽しめるようなものを。
清水委員	三好丘小では、サッカーは外国籍の子の活躍の場にはなっていないですか。
丹羽委員	今はそうでもない。好きですけど、なんだろう部活動があるわけではないし、こども教室に参加する子もそんなに多くないので保護者の送り迎えというのがやっぱりネックになってなかなか参加したくてもできないような事情がある。
都築副委員長	金管バンド部は小学校にない。いろいろな学校サポータークラブがネットワークを作って、この楽器を借りて体験をしましょうっていう動きがある。それで一ついいかなと思うんだけど、これだけ児クラもあって、こども教室もあって、特にみよしは充実してると思うんですけど、あと未来塾も自分ちょっと課題だと思っています。ずっと未来塾やってるんだけど、生徒があんまり来ていない。おかよし交流センター行っても、期間も3日間とか4日間とか、なかなかそこは地域の指導者の方がやってくださって、登録はしてあるけど、最初は1日目来るけど、2日目3日目来ないとか、延べ人数でいつも出てるけどあれもちょっと見直し改善した方がいい。もったいない。場所がそこじゃなくて、例えばエアコンの効いてる学校とか、各学校単位でやってもいいと思うし。
黒田委員	それこそ緑の集会場を行政区の開放してくれて、中学生そこ来ていいよって近いから結構勉強して自分が見に行ったけど、何人かやっぱり来てて、近いが大きいですね。暑いとね、多分おかよしセンター遠いからそういうふうに集会場がそれで開いてくれてエアコンもかかっていると結構近くの方が行きやすい。それがもうずっと続いているといいのかなと思っ

都築副委員長	て。学校来るよりも近いので。
丹羽委員	だから未来塾申し込まずに集会所に行って普段やってやるとか、そこが夏休み中の一つの居場所になる一つそうそれはすごくいいなという、夏休みの集会所とか近いところとか。
都築副委員長	プロムナードの集会場で勉強を見てもらってる子がいますよね。社会福祉協議会の方とか民生委員の方とかが面倒見てくださってるんですけど、手をかけなきゃいけない子がちゃんと集まるんです。
清水委員	そういう動きがね、保護者のネットワークなどでできているから、そこら辺をもっと行政がサポートしてあげてほしい。小学校区でね、地域も繋がっている、中学校も繋がっている。こういうのをやりますみたいな動きがあると、それこそ大きな社会教育の一つだなと思って、やっぱ地域でね、こどもを育てていくことは大事だと思う。
丹羽委員	プロムナードのところ、プロムナードの人じゃなくても、こどもも入って良いんですか？
事務局・多治見	小学校の子たちだよ。外国籍の子もいるし。
清水委員	あと1分位なんですけど、まだ言い足りないところがあったりとか、あとちょっと道德の面が何もふれていないのですが、心を育てるという部分ではいかがでしょうか。
都築副委員長	道德の授業で話があったとして、こういうふうにしてほしいなっていう答えみたいなのがあって、そっちに行くのが正しいのかが分からない。結論がクラスで出なくてもいろいろな思いをそれぞれに発表して、それを聞くだけでも良いかなって思う。
事務局・多治見	それで良い。それが道德教育だと思う。一つの価値観に収束するのは間違っていると思う。だからいかに聞いて、自分の考えを深めるか、お互いに深まっていくかっていうものだと思う。
黒田委員	かつての道德教育がもしかしたらそういうふうに行って行ってしまうところがあったかもしれないんですけど。
事務局・多治見	道德の授業だけじゃないかなと思っていて、やっぱり普段からいろいろ、朝の会から北中なんかも目当てをちょっと決めて1日過ごしたりとかする。その中で良い姿とか次の日に黒板でメッセージを先生が書いてある価値付とかしてあげて、何かそういう積み上げとか積み重ねが心の中に溜まってくると道德の授業とかやってもそういうのが出てきたりとかするのでやっぱり道德授業だけ頑張っても無理だと思う。いろいろな学校行事もそうだし、日常的なところで頑張るところとか部活動もそうだけどいろいろなことを頑張っていくことでいろいろなものが溜まってきてっていうところかなというのがあるから道德の授業だけじゃないなっていうのは思います。
	道德の授業が特化して成果指標になって、生活に繋がってくるので。ありがとうございます。すみませんちょっととりとめの話になってしまいました。また何かあれば感想など送っていただけたらありがたいです。すいません。ではあ

	りがとうございました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<Cグループ協議> Cグループでは社会教育を中心にご意見いただきたいと思っています。11 ページから 14 ページの 186 から 268 と非常に多いですが、こちらのところとあとは資料 3 番のこちらを見ていただきながら、進めていきたいと思っています。大変多いので上からやっているととどり着かなくなりますから、自分の関わっていただいているところを中心にどんどん上げていただくとして、私どもも打ち合わせなどでやってたんですけども、数年前と今やってるものが、これまだこんなが残ってるんだねっていうのもあれば、これがないねとかいうのがあったりしますので、特に皆さんからはそういったそれぞれの専門的な見地から、これは削除ってあるけども続けるべきだとか、これは新しく入れた方がいいぞっていういろんな意見があると思いますので、そういったものをどんどん話していただければと思います。市の職員も近くにおりますので、いろいろとお話しながらご意見いただけるとありがたいです。よろしくお願いします。ではもうどこからでも結構です。お時間も限られて、絶対足りなくなると思うので、言い逃しがないようによろしくお願いします。 鈴木康之委員 スポーツの方から言うと、やっぱりまず一番大きな問題は部活がなくなるということで、連携ですね。私はソフトテニスを中学校 1 年生から 50 何年やってきて、テニスのことしかよくわからないですが、部活のテニスについては、人は多い方だと思うんですけどそれでもやはり少なくなっていて、それと以前のように真剣味がなくなったように感じている。部活に一応参加するっていう形で中学生が来ている。昔のように上手になって、一流選手とまでは言わなくてもある程度の選手になりたいというところが見られない、ただスポーツ体験にしてやればいいというような、そんな感じがする。それから地域総合型のショートテニスの指導員もやっていますが、来る方がやっぱり少ない。ものすごく多い年と少ない年があって、兄弟でお兄ちゃんとかお姉ちゃんが野球を始めると、それについていく。今までやってたこどもたちも本当に 2〜3 人ぐらい。多かったときは 10 人ぐらいいた。前回も言ったように、親もショートテニスやテニスならできるので親子で一緒になってやってもらおうと家で同じ話題ができる。お母さんに野球をやってくれっていうのは難しいと思うけどテニスだったら、ショートテニスってふわふわのボールなので、そういうやつだったら親子でできるので、一緒にやっていただきたいんですけど、こどもだけ置いて親はやらないとか、体験してくださいって毎回言っても、自分は参加せずお母さん同士で喋ってるか、お父さんが連れてきたら、お父さんはちょっと抜けて 2 時間後に迎えに来るというような形が多いので、その辺り悩みながら人集めも苦労している。参加者が

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 鈴木康之委員	昔と違って確実に減ってきていると思う。 やっぱりそういったところはもっと市として盛り上げた方がいいですか。
鈴木睦子委員	もう少し宣伝など何かしないといけないかなと思っています。実を言うとショートテニスにみよしのこどもたちがいなくなり、東郷から来ている子がいる。話を聞くと東郷はそういう事業が少ないからだそうで、みよしはこういうことをやっているんで嬉しいと言って東郷から来る子たちがいる。それはそれでいいのかもしれないけど、みよしでももう少し盛んになってもらおうとありがたいと思います。
鈴木康之委員	質問ですけど、今ソフトテニスクラブのこどもたちの意識が低くなっているっていうのは、学校教育の中で部活の時間が限られてますよね。そのことがとても大きいのではないかなということと、もう一つはこどもたちだけを置いて親は帰るっていうことは、さっきの家庭教育じゃないけれども、親が習い事だけを渡しといて、親は違うところに行って、家庭教育のその親の意識が変わってきているのか。そういうふうに預けたらよし、みたいになっている傾向が強いなと思っています。
鈴木睦子委員	そうそう、お願いしてしまうという形になってしまっているの、さっき言ったように野球をお父さんとお母さん急にやれと言ってもできないけど例えばバドミントンとか卓球とかこういうテニスだったら、親も子もできるのでできるだけ親も体験してもらって、一緒の話題を作ってもらったら、一応家庭内でいろんなことを話しができると思う。
鈴木睦子委員	地域のイベントでもそういうふうなことを取り入れて一步になるかもしれませんね。提案してみようかと思いました。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 大地委員	ありがとうございます。続いていかがでしょう。別のことでいいですよ。 186 番から 193 番の辺り。生涯教育のところでサンライズの研修とかいろいろ出ているが、一点目は人材バンクを活用した指導者の確保っていうのが削除になったわけですがけれども、これはサンライズでの生涯学習講座を開くのにどういうところで今まで活用されていたのか。どういうふうに活用されていてどうして削除になったのかっていうところを知りたい。生涯学習の講座のことについて、市民の実態と思い、どういう思いでいるのか、生涯学習に対してどういう思いでいるのかっていうところのニーズは一体どこにあるのかとか、ニーズにどう応えているのかっていうところが私としてはいつも疑問で、例えば愛知教育大学とか東海学園大学による講座ってありますが、その講座は私も興味深いので、いつもどんなことやってるのかなって思って見るが、そうするととても私には遠い事柄で講座が行われているなっていう感じがすることが多くて、たくさんの市民がこのことを大学の先生に聞いてみたいとか、専門的な話をこの部分について聞いてみたいなっていうところで行われているのか。愛教大の先生で

二子石生涯学習推進課	これやってくれる人がいるからやりましょうぐらいの、この方がやってくれるのはこういうことの内容ってなっているのかそのあたりが、ちょっと精選されていくといいかなと思っています。感想と質問です。 先に人材バンクの話なんですけれども、人材バンク方には実際に生涯学習講座の講師の方には、今やってる講座やそれに関連するようなことで、要は新しいようなことをやる時に、今生涯学習講座の担当でやっているスタッフはどちらかというと探しの形が多い。人材バンクに実際登録してみえる方もいるが、その人がこういうことをやれますと登録していただいている方と、こんなことをやってほしいというアンケートで出た意見がなかなか一致しない。そういった現状がある。結局こういうことをやってみたいという講座を教えていただける方を人材バンクを使って探してくる形が多いので、あまり人材バンクの活用っていうのがされていないのが現状です。
大地委員 二子石生涯学習推進課	探すっていうのは、今はどうやって探してみえるのですか。 例えば語学の講座であれば、ある程度その会社だとか、外国人を派遣していただけるような会社とか、その中でこういった言語を話せる講師の方はいますかって聞いて登録している方を紹介していただくっていう形です。 やれますっていう人とやってみたいっていうのが一致していない状況になります。
富樫委員 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 富樫委員 二子石 生涯学習推進課長	事例で申し上げますとサンライズで、講座をやってもらえないかと依頼が来た。5人程度集まったら講座開設っていう感じだったが、そんなに来ないと思い20人募集したら、なんとオーバーして、抽選になった。希望者の名簿を見せてもらったら、若い人で20代が1人、上の方で80代。男女まぜこぜであらゆる年代も入って、そういう現象が起きた。単発なので申し込みやすく、単発で午前中で終わるという形で、料金も安価（1000円程度）で申し込めたっていうことも理由にあるかなと思っています。あと汚れるといけないので書道がなかなかやれないのが何かいい方法はないかと相談を受けたときに、筆ペンならいいのではということで筆ペン講座をやらしていただいた。おかよしで1回、サンライズで2回ぐらいやった。あれも抽選で3回目でやっと当選したって人もいたから、意外とやりたい、やってみたいという方はいると思う。道具も何にも用意しなくて簡単にその場へ来てちょっとやれるっていうのは魅力があるので、だからそういうのを狙いながら、その職員の方が集まってきてくれそうなところに声をかけたらどうか。それプラス今までの経験とか。 どっちかっていうと、長く何回かひとまとめでの講座よりも単発の方が申し込みは多い感じですか。 最近単発が多い。寄せ植え講座とかでも単発で。 例えば長くても午前・午後で終わるだとか。そういうのが何回か続くと集まった人たちで仲良くなって一緒にご飯食べ

大地委員 二子石 生涯学習推進課長	ましようとか、午後一緒にまたやって、今度またこんなのがあったら一緒にやりましようみたいな、またお友達と参加するみたいなのところもあるので、同じ種類の方って同じことをやる仲間を探してきてくれるような傾向もあるかなって思います。講座が終わった後にアンケートを取るが、お友達ができてよかったっていう意見もあります。うちの方でできるだけいろいろ、今までやってないようなものはできるだけやってみる。当然富樫会長が言われたみたいにかくさん来てくれるのもあるけど、全く駄目なときもある。それこそ豊田市で、赤ちゃんが産まれたお母さんを対象にピラティスの講座があり、大人気だったと聞いたので、今回企画したら1人しか来なかった。昨年開催したやつだと、スマホで電子マネー、PayPayとか、あれをやりましようって言って、初回やったとき定員枠以上集まったので、次もやったら、ほとんど全然来なかった。でもその次にやったときは定員いっぱいになるとか。本当にニーズがわからない。本当に読めないです。ただ、いろいろな新しいことはどんどんやるような形では考えている。本当に知りたいのは皆さんが何をやりたいのかっていうのが一番知りたい。来館者アンケートっていう形で来ていただいた方300人に書いていただき、その中でどんな講座を受けたいかなどをお尋ねしているが、そもそもそこに来ない方の意見は分からない。そもそも興味ない方って、ホームページ上でアンケートをしたとしても、回答もしていただけないですし、そういったところの潜在的なところがやはり発掘が難しいと考えている。 今おっしゃられる通りだよ、皆さんが何をやりたいかを知りたい。 知りたいけども興味の無い方をどう向かせるかっていうところ、そもそも接触をどうしたらいいのか。唯一4月ぐらいになると高校生に合わせて生涯学習のパンフレットとか入れたりする。それを見ていただくと皆さんはそんなことやってみたいと言われるけど、それが申し込みは結び付くかどうかっていうのはまた一つ見えない壁というか、何かはあるっていうのが現状です。大学の連携の話もついでにさせていただくと、大学の連携もタイミングで、夏休みにこどもをちょっと絡めたような形で何かやっていただけないかと、大学に連携をお願いしていく格好になりました。ただ、大学の先生で普段難しいことをやってみえるので、マッチが難しい場合もあります。昨年ですと鉱石、いろんな石がありますよっていうのをやった。結構小学生なんか特に女の子に人気があった。男の子はちょこちょこ。それも単発の講座。うちの方ではもうできるだけ何か時期と年齢を絞って大学にお願いして、できるだけ今までやったことのない目新しいもので少しでも食いついてくれたら、それは定番にできるかなっていうのは考えてはいます。今年の夏、今考えているのが、ヨーロッパの方で流行り始めてるボードゲーム。俗に言う人生ゲームっぽ
-------------------------------------	--

	いやつではなくて、ボードというのはもうテーブルで、テーブルの上でする遊びという意味で図書館とかでもやっていると聞いた。要はカードゲーム、トランプもボードゲームの1つであと UNO。テーブルの上で短い時間 15 分 20 分ぐらいでやるっていうのが、豊田市の図書館でやっていたということもあるので。ルールはそんなに難しくなくて本当に簡単なものです。例えば、今出てる数字よりも大きな数字出しましょうとかそんなような形で年齢層も幼稚園ぐらいのお子さんから定年迎えたよう方まで、それぐらいの方が何十人とか集まって、1 テーブル 5、6 人ぐらいの人数でやってたんですけど、始まって 5 分もすれば皆さんそこでもう和気あいあいというような感じでやってく。生涯学習とも少しニュアンス的には違うかもしれませんが、人が集まって年代も超え、初対面の方でも、仲良くなってというような要素もあるので、そういったことでサンライズに人を集めて読書に興味をもってもらう、生涯学習に興味をもってもらうようなきっかけ作りができれば、そういうことを定期的開催することで人が集まるような場所に待っていただけたらいいかなと思っている。今年の夏 1 回やってみようと考えているところもあります。とにかく人を集めていろいろ体験してもらってというのが一番かなと。そこでついでに何か新しい、ちょっと自分に合うようなことを見つけてもらえればいいっていうようなことは今考えてる。いかに経験してもらおうかなということで一つのアイデアとして今考えています。
大地委員	楽しいのはやっていただけるとね。私実は 2 回連続で外れててっていうこともあるので。
鈴木睦子委員	それは何、単発のものですか。
大地委員	単発じゃなくて、生成 AI を頼んでるんですけど、今時のやつ。プログラミングは当たってやったんですけど、生成 AI は本当に当たらなくて。
鈴木睦子委員	でも第一歩として、1 回の講座とかはすごい取りかかりがいいと思う。大学の先生の講座は敷居が高かった。そういう単発や楽しい講座があると良い。それとサンライズに行けない人たち、そういう場合は地域の生き生きクラブで、今のボードゲームじゃないですけども、麻雀なんかをやったり、なんかそうみんなにちょっと一緒に楽しむ。そういうことも、行けない人はいけない人なりに、地域でね、近くの憩いの家だったり、そのようなところで簡単に。ここの統計には出てこないけどそういうのもあります。
二子石 生涯学習推進課長	ここの数字に表れなくて、地域で活動しているような人も見えるじゃないかなっていうことで、ちょっと実は調査も始めてはいるんですけど、いろいろな潜在的にやってみえる人がいるかなと。
平山委員	私は読み聞かせのボランティアを対象が赤ちゃん中学生ぐらいまでやっている。最終的には本好きの人に育ってほしいなっていう気持ちでボランティアの人たちも活動をしてると

二子石 生涯学習推進課長	思います。特に小学校の高学年ぐらい、あるいは中学生もみよし市内けっこうやらせていただいているんですけども、その子たちに読みごたえのあるものを提供しようとする12分ぐらいの本が多い。ただ、いただける時間が10分程度なので、つらいところがあるがそれは仕方がないのかなと思うけど、その10分だけでも、できるだけ確保をしていただくようお願いできればなと思っています。ただそれもだんだん縮小傾向にある。でもあの時間って本当に大事だと思っている。いいお話、いい本を提供することで、こどもの心に何か引っかかりがあつて、本を好きになってくれたらいいなっていう気持ちがあつて、ボランティアで本を選んでるので、できれば毎月10分ぐらいの時間をいただければありがたい。 あとみよしの図書館で読書講演会をやっているけど、これが非常にレベルが高くて非常に評判がいいです。みよし市民だけじゃなくて、名古屋からも結構来ます。これは本当にありがたいので、ぜひ続けていただきたい。私のこどもが中学生ぐらいまでは興味のありそうなものは連れていったりしていたが、間近にすごくいい先生が来てお話してくださるっていうのは良い経験で、こどもが大学生になった今でも覚えている。その先生たちの書いたものは手に取るので非常にありがたいなと思っている。ぜひこのまま継続していただけると嬉しい。 読書計画で冒頭の説明の中で本を読む子がちょっと少なくなってきたという話がありましたが、先日校長会でも話をさせていただいたんですけど、小中学生ってみんなタブレットを持った。タブレットで電子書籍を利用できる。結局本を読むことで面倒くさいのは借りに行く返しに行く、この二つが大変面倒くさいというところもあるので、タブレットであれば、Wi-Fiさえ繋がれば見れますので、基本的に電子図書館は図書カードを持ってる方しか見えないんですけど、タブレットで皆さんが見れるような形に新年度からやっこうと思っています。小学校で調べものをする授業ってありますよね。生き物について調べましようとか、図鑑だとか、そういった本をタブレットを使って見れるようにすれば、貸し借りなしで本が見れるようになる。電子書籍のいいところは、文字が小さくて読みにくくても文字を大きくすることができたり、読み上げ機能もついていたたりするので多少ちょっと聴力が…っていうような子でも大丈夫。ただ、対象の本は借りないといけませんが、そういったものの予算を図書館がもっていますから、そのあたりは学校の先生と相談をしながら、予算を確保したい。読み聞かせでもお使いいただけるとお話を耳で聞きながら目でも文字が見られるメリットがあれば、より理解も深まるのではないかと。それらのことは他の自治体でもどんどんやっこうしていて、実はこの間東浦町さんに行っってどんな感じでやっこうしているか見させていただいた。そういっったこともちよつと新年度からやっこうしていきたいなと考え
-------------------------	--

鈴木康之委員	ております。 少しでも本好きの子が増えると良いとそういう狙いもあります。 学習のことで、仲良しクラブで書道も教えているんですよ。だからスポーツクラブとあるもんだからスポーツしかないような気がするけど、そういう文化的なものもスポーツクラブで教えても別にいいのではないかな。そうすれば、今週はこういうスポーツやるけど、来週は書道やろうとか、そういうことをできるようなスポーツクラブであってもいいと今ふっと思いました。
富樫委員 鈴木康之委員	パソコンの教室もありましたよね。大人の方はね金曜日。 こういう先生が地域にいれば、その人が1週間に1回来て、それでこどもたちとか大人でもいいし、教えてっていう何か合併してっていうか、そういうことをしてもいいかなって思いますけども。
富樫委員	歴史民俗資料館のところで継続は何となくわかるんですが、227番の改善、小学校などへの貸し出し資料の拡充および出前授業との連携が改善っていうのが、どういう構想があるのか教えていただきたいっていうのと、あとずっと下に削除が結構あって、254と統合とか255と統合とか、いっぱい削除がありますよね。これは一緒にしても同じことだからいいだろうということで、統合されるということと理解してよろしいですよ。出前授業が縮小っていうのはどっかで見たような気がしたんだけど、出前授業っていうのはほぼ雇用研究会の方だと思うが他にもありますか。
橋本歴史民俗資料館長	あと縄文土器の品質…南部小学校が素焼きをさせてもらえるので、そこは教職員でやっているが資料館の仕事です。出前授業は、拡充と思っていただいていたいいんですが、今は猿投古窯研究会の皆さんに協力いただいて、いわゆる焼き物の勉強だけなんです。実際はあの民具の貸し出しも依頼があるとやっているが、それはもう本当に貸し出すだけなので、専門の学芸員が学校に行って話をするなど。今考えているのは先生に対して講座みたいに解説する、いかにこどもにうまく伝えるかっていうのを学芸員から先生に伝えたりサポートしたりしたいなと考えている。先生たちもなかなか時間が取れないので、今のところは職員が行って直接学校に出向いて、この道具はこういうふうにやっていただいて集荷してとか、昔はこういうふうに使ってたといった話をしたいと考えて進めているところです。 二つ目の質問ですが、削除が多いということは統合の形です。この10年前に計画作ったときには、いわゆるその推進と関係ない事業に合わせて作った部分もあったので全部やめるということではなく、なるべく統合してコンパクトにしたいと思っています。
富樫委員 鈴木教育部副参事兼	ぱっと見てわかるようにですね。ありがとうございました。 ありがとうございました。時間もだいぶ足りなくなってきた

学校教育課主幹	ので、こちらの重点施策、今 20PlusOne ということでやるんですけども、いろいろとそれぞれの分野で話題にしていたんですが、これ見直していただいて、ちょっとこれはこうした方がいいんじゃないかなとか、これは新しく入れ込まなくちゃいけないことなんじゃないかなとか、特に、社会教育の視点で、今の作戦が割と学校教育の方に多い感じがありまして、特にこの社会教育という部分で、もう少し充実させていくことが大事じゃないかなということをもう話題になってますので、ぜひそういったものを盛り込めたらなと思っていますがいかがでしょうか。
大地委員	社会教育と今のここの部分を考えると、社会教育のいろいろな研修会とか行かせていただくこともあるんですけど、もっと広い範囲で考えられていることがたくさんあるので、局長さんからも話があった家庭教育の部分は今日一体どこの部分で入り込んでくるのかっていうことを考えると学校教育のところではなかなか入れることも難しく子育て支援のところなのか。でももっと大きく考えて家庭教育をどこでどう考えていくかっていうところを考えていく必要はあるんじゃないかと感じています。やはり家庭教育って大事だなんて誰しも思っているし、いい子に育てたいなってどの家庭の方も思っていると思うんですけど、忙しさにかまけてままならないっていうのが現状だと思う。だけどそんな中でここの部分だけは大事にしくなくちゃいけないとかここの部分はっていうのはどこかの機会で学びたいことってきっとあると思う。自分が本当に育休のときにこんなことしてよかったかどうかは、今思うとわかんないんですけど育休のときに、みよし市で子育てについて学べるっていう講座があって、大学の先生とかどこの先生だったかわからないですが、来てくれて5回ぐらい多分講座があったんですけど、そういうのをできる機会を設けるとか、やはりどこかで学びたいということも思います。だからそういう機会をどこかで作り込んでいくとかいうことは必要なんじゃないかなということを感じています。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	そのあたりがこども未来部のところと、うまく繋がっていくんですかね、いい意味で分担ができたりだとかしていくといいのかな。
大地委員	そうですね。その辺の繋がりと、繋がりのことでもう一つだけ思っていたことがあって、こどもの体力向上も出てくるじゃないですか。この中の体力向上とスポーツ課のやっていることを上手に何かそれぞれではなくって繋ぐっていうか、そういう方向性もあるんじゃないかなということをお思います。
林スポーツ課長	この教育振興基本計画も改訂に入ってるんですけど、同時にスポーツ推進計画も改訂に入っていて、うちの政策が全部真っ赤になるのは、作り変えている内容ですので、特にやっていかなきゃいけないなっていうところはやはり、こどもたちのスポーツをする機会がどんどん減っていて、小学校は課

鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 鈴木睦子委員 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 二子石 生涯学習推進課長 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	外授業でサッカーとかバスケットやっていたんですけど、それがもうなくなっちゃって、それを地域でなんとか受け皿を作って、そこで子どもたちがやれる機会を作って、大会も使って、やっていこうじゃないかと。実際は本年度からやってみして、子どもたちのバスケットの受け皿とかもスポーツ協会の方で作って、大会もバスケットボール大会とか継続、サッカーの方が放課後子ども教室っていうところで、サッカーをやってもらってその中で募集した形で。あとは地域で連携しながら、子どもたちのスポーツの場を作っていく、体力支援、健康増進に繋げていこうと思い、新しい計画で作っていこうとしているところです。 時間がなくなってきましたが言い残しはないですか。 さっき家庭教育についてのお話をされましたけれども、赤ちゃんが生まれてその第一歩にお母さんが関わるのは保健のあそこですね。そこで本当に第一歩、お母さんも1か月、2か月ぐらいという感じのときに、やっぱりそこがすごい大事だと思う。あとは幼稚園とか、その幼児のときの親子そういうのがやっぱりこういうのがすごい大事なのですが、でもみよし市は小学校からにすごい力を入れているので。 そこら辺からどうやってなんだろう、学齢期ですかね、そういったところでの家庭教育と繋がっていくかっていうところ。 ブックスタート事業っていうのがあって3か月ぐらい経ったときに赤ちゃんが生まれてどうですかっていうのを様子を見ながら、絵本を赤ちゃんに見せてこう慣れてもらうっていうような事業をやっておりまして、ほぼ100%の赤ちゃんのお宅に赤ちゃんの顔を見つつ、こういった本を読ませてくださいね、お母さんからやってくださいねって言っても進めていく中でやっておりますので、ちょっと勉強というかね、ちょっとそういう活字を見ながら読みながらっていうスタートにはちょっとかなというふうに思っています。 ちょうど時間になりました。申し訳ないですが1回ここで締めたいと思います。ありがとうございました。
長谷川学校教育課主幹	<Aグループ発表> Aグループは幼児教育について話し合いを行いました。 まず、みんなで育てるっていう部分ですが、孤立を防ぐっていうことが、みんなでっていう意味になってくるのかなと。昔は集まる場所とか機会も多かったんですけど、今はなくなっているのではやはり2人幼児のときから、中学校のおやじの会みたいな、ああいうパパとかが集まってくるようなところがあるということで、今実際も「パパと遊ぼう」という企画があるっていうこと聞いておりますが、それもこれから増やしていく計画しているそうです。ただ、今、大きいくりでの集まりとなっているので、もう少し年齢を区切るとつながりが出来ていくのではないかな。それから、園では、お父さ

廣川学校教育課主幹	んたちにボランティアを募ってやっているというところなので、そういうところから集まる機会が持てるといいなという話合いになりました。 ただ、今、いろいろ多様な家庭もありますので、今までと同じような会の持ち方とか、集まり方っていうのは難しいので、そこは変えていく必要があるんじゃないかという話がありました。その中で、学校運営協議会とかのコーディネーターの方が、幼稚園、保育園と小学校をつないでくれて、今、つながりが出来てきているというお話がありました。ただ、園に通っていない未就園の子とか、障害のある子についても、みんなで触れ合うような、支援センター的なものをもっと充実していくといいというお話がありました。それから細かく見ていくと、就学時健診のときにリーフレットを配っているわけですが、より認知されるように配布だけではなくて、4月以降入学してからも絆メールとか、いろいろな SNS を使って、伝えていく必要があるんじゃないかということ。それから、施策5から7については、幼児さんが集まる場ということで、今ふれあい広場とか支援センターとかに、小さい子が集まってくるんですけど、児童館もいろいろ各地区にあるので、児童館を上手にを使って、幼児も触れ合う場所ができるといいのではないかといいところ、そのためには、ハード面とか、対象年齢をもっと広くするなどがあるが、そのためには、環境をしっかりとつくっていかねばならないし、人的整備もしていけないという課題があるということでした。それから、33から34の困難さを抱えるっていうところで、幼児から離れたところもあるんですけども、やはり居場所づくり、それから、学習支援も必要だということで、未来塾をやっておりますが、平日にああいう未来塾が出来たら、学校に足が向かない子もいけるんじゃないかというお話が出ました。以上です。 < B グループ発表 > B グループは、学校教育についてになりますが、まずはカリキュラムマネジメントということで、現状、授業数が多いっていう実態もあるので、そういったものを見直す、週当たりの時間数を29になっているのを28に減らすとか、新しいモデル案を考えていくことで教員が働き方改革になるとともに、こどもにもゆとりができて、家に帰った後、遊ぶ時間がもてるなど、プラスに働いていくのではないかと。小学校の教科担任制についてもやはり空き時間が確保できるっていうメリットはあるものの、教員が専門教科を指導できないという問題だとか、その状況でも教科主任をやらざるを得ないとか、少しデメリットっていうものも考えられるなということでした。英語については今小学校から導入が始まっていて、やはり、もう中学校に上がる段階で、二極化、つまり、英語が好きな子、嫌いな子に分かれているなということで、小学校中学校が授業を見合ったりして、連携を取り合って対応していく必要があるんじゃないか
------------------	---

中井学校教育課主幹	といったところが出てきました。家庭学習、家庭教育においては、やはり宿題において、もっと増やしてほしいとか、ある家庭においてはもっと減らしてほしいとか、ないほうがいいのかというように、やはり家庭によって求めるものは、大きく違いがあるなということで、やはりそういったものに関しては、家庭でしっかりと見ていただけるような環境をどうしたらつくっていけるかなってという話題になりました。こども自身が、自分で考えて進めていけるようにしていくことが必要ではないかということなんですが、やはり、できる子は自分で考えてできるけど、出来ない子は、何やっていいかわからないというような個人差が大きいとか、中学校になるとそもそも親の言うこと聞かないんじゃないかっていう難しさも、やはり課題としてあるんじゃないかなということが出ました。個別の支援というところは、副担任、特に今 1、2 年生の 30 人以上の学級に関しては、1 人配置を増やしているのですが、副担任という形でやっていると担任よりも副担任を希望する教員が増えているということもあるということと、複数対応できるメリットはあるものの、どうせ増やすなら学級数を増やしてほしいという意見も出ました。やはり外国にルーツのある子にとっては効果が大きいので、充実させていければいいかなということも出ました。 不登校の居場所づくりということで、中学校の校内フリースクールがあるが、やはり効果としては、今まで登校出来なかった子が登校できるようになったということで効果はものすごく大きいものがあるということで、もう少し充実していけば、不登校の数もさらに減っていくのではないかとこのところが出ました。最後に部活動の地域移行ということで、スポーツに親しむ経験を増やしていくという場合、やはり部活動は大切になってくる。だけど、やはり人材確保の難しさもある。実際には、親の中では、指導は教員にやってほしいっていう気持ちもあるのではないかとこの意見も出ました。現在小学校では、部活動はないのですが、今後運動する子としない子の二極化といったものがますます出てくるんじゃないか。それに、それを補うための放課後こども教室を今やってはいるものの、やはりこちらのほうも、人材不足で、充実した内容が出来ていないということもありますので、地域の協力を得ながら、放課後こども教室においても、充実した取組になっていけるように今後、頑張っていけないといけないということが出ました。学校教育としては以上になります。 < C グループ発表 > C グループは社会教育について四つの項目が出てきました。 一つは先ほどの B グループにもありましたスポーツ面の課題ということで、部活動の地域移行の受皿として活動をしていくけれども、やはり中学校に参加するときの真剣さとか、勝ちたいという思いだとかっていう部分とは、少し違う形の参加になってしまっていることと、種目によっては人数が少なかったりすることがやはり課題となっていてまして、今以上に盛り上げ、社会教育における受皿となっていく上で、学校でうまく参加できるような体制が整えられないかなと。習い事のようにこども
------------------	---

	だけ置いていって、帰るときに迎えに来るといような形ではなく、親子でともに活動できるような仕組みが必要ではないかと。そのためには、家庭の理解や家庭の教育力といった観点から、一緒に楽しむ、一緒に学ぶといった保護者の考え方を変えていく必要があるのではないかとということが出ました。 二つ目ですけれども、生涯学習講座に対しての考え方として、やはりニーズを大切にしているいろいろな講座を検討していくことがいいのではないかとということで、人材バンクの削除というのが項目として挙げられてたんですが、やはり市民のニーズに合わせて講座を準備し、講師の方を探していく。それによって成果として、新たなコミュニティができ、また新たな自分を発見されたりとかということで、やはりやってよかったなと思うような講座を単発にはなってしまうことが多いらしいのですが、それをやり続けていくことが大事なのかなと。逆に大学による講座に関しては、夏休みにこどもを交えて行うことが少し難しいというところが課題としてあり、やはりこれから講座をつくっていく上で、時期と年齢を絞って講座授業の敷居をなるべく低くして、参加しやすいような講座を考えていくことが大切なんじゃないかなというところの意見が出ました。 三つ目は図書に関することです。図書館での読書啓発活動についてはすごくありがたいという御意見が出ましたし、読み語りを各校で展開してるんですけども、よい話を取り上げるためには、もう少し時間を確保できるといいなという意見がありました。また、電子図書をうまく ICT に導入して、本に親しむ機会を増やすことによって、本好きなこどもたちを増やしていけるといいのかなという意見もありました。 四つ目が 227 番の改善と書かれていた文化財のところなんですけれども、小学校の出前授業のところ、具体的には昔の猿投古窯などを実物を使いながら、小学校へ出前講座をしていくことを積極的に進めていきたいということもあるんですけども、受皿となる学校の先生たちも、やはりみよしの郷土のよさとかを理解していただいた上での出前授業になるとより効果が上がるんじゃないかというような御意見が出ました。 最後に作戦全般のことについて話し合ったときに、先ほどの部活の中で、家庭の教育力が必要だっていう御意見が出たんですが、この家庭教育はどこで扱うんだというところがあって、社会教育、学校教育、幼児教育となったときに、そこが不明瞭であるというところ。それでもやはり社会教育とのつながりを考えて、地域を支えていくことが家庭教育にもつながるものではないかということが出ました。その中でも、家庭教育で 1 番大事なものは、御家庭の中でお子さんが生まれたところのサポート、ここがやはり 1 番大事になり、そこでの教育が充実すれば、幼保学齢期とこどもが上がっていったところの中の家庭の教育力や保護者の考え方や姿勢というのが変わっていくのではないかと意見が出ましたので、この家庭教育力をどのようにみよし市全体でサポートしていくかというのは、大きな課題であるということが確認されました。以上 C グループの発表でした。
--	--

大村委員長	今からの時間ですけども、ちょうどこの春に任期が切れるということで、委員のお1人ずつですね、今までの協議、この委員会参加してのご感想、ご意見をいただきたいということで、順番に少しお話をいただけたらと思います。
大地委員	この会に参加させていただいて、本当に多くのいろいろな資料をいただいて、いつも、こんなたくさんのことを考えてくださってるんだということを思っています。たくさんのことを考えていると、私も資料をいただいて読んでいくとだんだん小さいところに目が行ってしまって、私は何を考えたらいいいのかなということをいつも思いながら、参加させていただいています。今思っていることは、教育として今必要なことは何かなということを考えていかななくてはならないということも思っています。社会全体を見ると本当に、スマホを通した詐欺事件だとか、こどものいじめ事件だとかいろいろあって、情報モラルについてはこれから絶対必要ではないかということも思っています。この会の初めに10年後の教育を考えるということがあって、10年後かと私も思いながら参加させていただいたんですけども、やはり10年後のこどもたちを考えると、コンピューター、AIとかいっぱい入ってきて、今の時代とは全然違う時代になるんじゃないかなということも思っています。やはり柔軟に対応していけるこどもを育てるということもすごく必要ではないかなということも思いながら、参加させていただいています。それからもう一つは多様性、それから人権の問題、そういうことを忘れないで、これから考えていけるといいかなということも思っています。 以上です。
都築副委員長	この会に参加させていただいて私自身も学ぶことが本当に多かったです。家庭教育、学校教育、社会教育というそれぞれの面で本当に、これからのみよしのこどもたちをどう育てていくのかということで、本当にいろいろ考えさせられた1年でした。私は学校教育にずっと携わってきたのですが、学校教育だけでは支えきれないことがたくさんあるんですね。今思うと、親の子育て観っていうですかね、いろいろな家庭があるもんですから、家庭教育の充実というか、家庭の教育力をつけることも本当に大事だと思うし、これまで学校がやっていたことも、地域と一緒に、社会と一緒にやっていくことは、これからもっともっと大事になってくるのかなと思いました。したがって、これが本当に皆さんに市民の方々に浸透して、市民みんなで、これからのみよしをつくっていくっていうだというプランになっていけばいいなと思っております。どうもありがとうございました。
丹羽委員	学習指導要領があったり、こういう教育プランがあったり、学校の教育目標があったりと自分の学校で、どんなことをしていかなければいけないのかを常に考えながら、参加させて

	いただきました。都築先生もおっしゃったとおり、学校でできることっていうのは限られていて、全てのことが、こどもたちに教えられるわけではありません。私も思い返してみると小学校のときに、少年野球のチームの監督さんに野球も教えるけど、今、家庭で本来親が教えるべきことをこの野球の場で教えるよ。だから、挨拶のこととか、人への思いやりの心とか、そういうのをすごく教えていただいたなって思っています。みよしもそんな地域になるといいなっていつも願いながら、学校でこどもたちと接しております。本当に勉強になりました。ありがとうございました。
黒田委員	この会ほど参加させていただきまして毎回本当にいろいろな視点で考えさせられたなあというに思っています。前回のものが、学校のほうにも配られて私もその冊子を見てはいたのですが、改めて、じっくりと見てみると、この計画を意識してこどもたちに接したかっていうとなかなかそういうことは出来てなかったの、今後もしこれが新しい形となったときには、私も現場でこどもたちと接することがあると思うので、意識することと、やはり周りで一緒に働いている職員にもそういうことを考えて、みよしのこどもをつくっていくんだ、育てていくんだっていうそういう意識をしっかりと持ちたいなというふうには思っています。私自身がみよしで育ててもらっていますので、そういった面では、幼児教育とか社会教育、地域教育、学校教育という柱をしっかりと意識することがすごく大事なんだなと思いました。これから新しく先生になっていく方とか仲間になってく人たちにも、このことを意識してこどもたちを育てていくこと、今、目の前のこどもたちを育てることが大事なんだということは強く伝えていきたいなと思っています。どうもありがとうございました。
林委員	すみれ保育園林です。この会に参加させていただいて本当にいろいろなことを教えていただけたかなって思ってます。本当に学校の先生たちは学校で何ができるかなというお話だったんですけど、私も保育園で何ができるかな、本当にこどもたちが、1番初めに学ぶ場として保育園があるのかなあとは思ってはいるんですけど、そこで、どんな経験をさせていくか、また家庭支援っていうところも、本当に保健師さんたちは赤ちゃんのときからやったださってはいるとは思うんですけど、本当に家庭支援の始まりも保育園なのかなっていうところで、どのように保護者にアプローチして、どのように、保護者を巻き込んで、家庭支援、家庭教育っていうところを園が発信出来ていくのかなっていうのは今後の課題にはなってくるのかなあとは思っていますので、また引き続き勉強させていただけたらなと思っています。ありがとうございました。

岡田委員	私立幼稚園父母の会代表の岡田です。この会に参加させていただいてまず思ったことは、みよし市の教育ってことだけで、こんなにたくさんの方たちが関わって動いてくださっているということは、分かってはいたつもりでしたが、実際この場において実感しました。また、ただ教育っていうだけでなく、学校に任せっきり、幼稚園に任せっきりだったような気がします。地域や家庭とのつながりが本当に大事なんだなということをこの会で実感しました。ちょっと気になったんですけども、来年の予定が出ていたようなんですが、開催の日程がですね、夏休み期間に入っています。子育て世代の方をまた委員に選出するのであれば、ちょっとそういったことも考慮していただきたいなと思いました。ありがとうございました。
大村委員長	はい、ありがとうございました。委員さんも出やすい、そういう日程をということですね。ぜひ、事務局のほうで考えいただければと思います。
山岡委員	保育園父母の会会長の山岡です。1年間通して、市役所の方だとか学校の先生方とこういった直接お話しする機会が初めてだったんですけども、今まではああしてほしいな、こうしてほしいなと思うだけで、心に思ってるだけでこういった対面で話すことがなかったので、とてもいい機会だったのと、先生方や市民の方、市役所の方がこんなに動いてくださってるっていうのが分かっただけでもすごく私の勉強になって、次は自分が自分の住んでる地域から地域の行事だとか、そういったものに参加して動いていけたらいいかなっていう一歩になれたと思ってます。ありがとうございました。
富樫委員	私も最初、長いこと携わらせていただいています、本当にいつも感じるんですけど、みよしの教育っていうのはとても頑張っていると思っています。その頑張り、今ここにいらっしゃる先生方とか、皆さんの力とか今日、段取りしてくださった学校教育課の先生方とか、そういう方たちの努力があるから成り立っていることであって、そのことをこのメンバーだけじゃなくて、もっと地域への発信力をうまく使って、みよしの教育力っていうのは、こんなに頑張っている人たちがいっぱいいるんだよということを、特に子育てをしてみえる方たちに伝えたいなと今思っています。私は今、中学校の地域コーディネーターをさせていただいてますが、地域と学校を結ぶということの難しさも感じていますが、これからは地域の教育力も上げながらといいますか、今ある地域の教育力をうまく吸い上げて、こどもたちの成長にも役立てていけたらいいんじゃないかなという感想をもっています。以上です。ありがとうございました。

鈴木睦子委員	いろんな立場の人の意見が聞けて、認識を新たにすることが多かったです。それで言葉とか文字にすることの本当に難しさをこの場においてつくづく感じました。以上です。ありがとうございました。
鈴木康之委員	スポーツ推進委員の鈴木です。 普段は、スポーツのことしか考えていないので、皆さんがこの会でいろんな意見を言っていただきましたので、私も勉強させていただきました。ありがとうございます。最後に、世の中が便利になるたびに、結局失うものも多くて、特にこどもたちの場合は、スポーツだとか勉強とかそういうのがすごく低下してきたような気がするので、1番は家庭教育ですかね、親がもっと大人になって、親がもっと勉強しないと、結局はこどもたちをよい方向に導くことができない気がしてきましたので、また、このような場で勉強させていただくことは本当にありがたいことだと思っています。どうもありがとうございました。
平山委員	図書館協議会の平山です。 本当に毎回たくさんの資料をいただいていつも、私の手に余るような難しい課題ばかりで、勉強することがとても多かったです。本当に貴重な時間だったなというふうに思います。みよしの教育っていうのはこんなにたくさんの方々が知恵を絞って、こどもたちの将来、あるいは全市民、赤ちゃんから老人までたくさんの方々の生きがいか、将来を見据えて考えてくださっているんだなということがよく分かりました。 今まで何となく生きてきて、そういったことを考えることもなかったので、とてもいい機会を与えていただいたと思っています。本当にありがとうございました。
清水委員	この会議に参加させていただいて、いろいろ考えた中で、居場所っていうのはどういうものかっていうふうに思ったときに、家とか学校とかそういう物理的な場所だけではなくてすごく大事なものは、そこにいて人で、自分のことをちゃんと大事にしてくれて、しっかり考えてくれて、認めてくれる人がいるところが居場所になるんじゃないかなっていうふうに思いました。本当は家が1番の居場所になるのが理想なんですけれど、そういうふうにはいかない子もいるので、学校で担任の先生やほかの先生が自分のことをどれだけ大切に思ってくれるかっていうことが分かれば、そこが居場所になるんじゃないかって思いました。昨日、ちょうどこの会議の予習をしてたときに、大学生と高校生の息子が近くにいたので聞いてみたんですけど、みよしが好きって聞いたら2人とも好きと言っていました。学校はどうだったって言ったら楽しかったって言っていました。やはり先生たちにかわいがって

大村委員長	いただいていたので、そういった答えをしたと思うんですけど。あと、子供会はどうだったって言ったらそれもよかったって言ってました。たくさんのお母さんにもかわいがっていただいたので、それが地域の人ってということだと思うんですけど、いろいろ多くの人がこどものことをし、大切に一人一人を見てくだされば、こどもにとっても好きなみよし市になるのではないかなと思いました。ありがとうございます。 ありがとうございました。 1年の協議だけではなく、たくさんの方の資料という話がございましたけども、またそれを読みながら、考えて、参加していただいた委員の皆さんの言葉を聞いて、またいろいろ考えさせられました。ぜひ事務局も、今の御発言をくみ取って、また来年に生かしていただければと思います。ありがとうございます。 私からも少しだけお話をさせていただくと、今の切れ目のない支援とかですね、誰1人取り残さないっていう、そういった言葉が、よく使われるようになりました。現行の計画のときもそうでしたが、気になっていることが実は一つございます。それは、青年世代への、支援といいますかね、青少年教育というふうにも言ってもいいんですけども、そのことが、この計画の中には弱いかなという実感があります。特に例えば高校生ですね。これは市町村の教育委員会では抜け落ちがちになるんですね。学校教育は、やはり幼保小中学校を管轄されていますので、高校は自治体ではもっていないので、それは教育委員会の仕事ではないっていうふうにされてる場合が多いですね。しかし、市民としては地域で生活して育てているわけなので、そうした高校生がこの地域の中で、どう育てているのかっていうことは、教育委員会としてやはり責任を持つべきだっていうふうに思うんですね。実は最近、西尾高校という高校がございまして、そこの生徒さんがですね、市のほうに要望を出したと。それは自分たちが勉強する場所っていうのは地域にないと。図書館はもういっぱいになっちゃうし、何とか地域の中で居場所をつくってもらえないかっていうことで、これも面白いなと思ったんですが、教育委員会がそれに答えたわけではなく、商工会が答えたっていうんですね。つまり喫茶店とかですね、それから面白いところではトレーニングジムですね、そういうところが居場所を用意しましょうと。喫茶店だと高校生にちょっと安く、飲み物を用意して、モーニングをつけてくれると。いつ行っても、モーニングがつくので、食べ盛りの高校生にとってはうれしい配慮だと思いますが、何時間いても大丈夫だということです。トレーニングジムも会議室を開放してそこを自習室にして、トレーニングジムですから、体を鍛える用具があるんですがそれを使っていいと。サウナもついていてサウナも入ってもいいと。そういうことをやっているようで、高校生たち
--------------	---

	はあんまりそういうトレーニングジム行きませんけども、初めて行った高校生にも聞いてみたのですが、とてもいいですと答えていました。それは喫茶店とか、トレーニングジムのお店にとっても、実は利益のあることで、お客さんとして来てくれる、あるいはこれからお客さんになってくれるということもあるし、そうした若い人たちが来ることで、店も活性化するということですね。だから、ウィン・ウィンの関係だ。 今年度から始めた事業なので、何か評判がよければ、続けますという話だったんですけども、やはり地域がそういった高校生をちゃんと受け止める。高校生の声に応えてくれるっていうことは非常にうれしいことで、やはり、それは、先ほど地域が好きかどうかって話もありますけども、自分たちが何かこうアクションを起こすことで、地域が応えてくれる、そういう応答の中でですね、地域がもっと好きになっていくとか、もっといい地域にしていこうという思いが生まれてくるのかなっていうふうに思います。ぜひ、生涯学習課といいますか、社会教育の役割なのかなというふうには思っているのですが、そういった高校生世代、大学生の世代ですね。そういった人たちが、その地域の中で活躍できる、自分のやりたいことがやれて、そして地域がそれに応えてくれるっていうような、そういった関係をぜひ、創り出していだければというふうには思いました。赤ちゃんからお年寄りまで、みよしという地域の中で、自分を大事にして、自分のやりたいことができる、その社会も信頼できるそういった地域にぜひなっていたきたいなというふうに思いましたので、要望として申し上げておきたいと思います。ありがとうございました。 それでは、本日の協議は、全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 事務局・多治見 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 増岡教育長 鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	大村先生どうもありがとうございました。では今後の予定について事務局より御説明します。 それでは要項のその他のところになります。 来年度もこのような感じで一応4回予定をし、令和8年度の新計画完成を目指していきたいと思っております。以上です。 では、最後にお礼の言葉を増岡教育長より申し上げます。 教育長御礼の挨拶 では以上をもちまして第4回みよし市教育振興基本計画推進委員会を終わらせていただきます。 皆様御起立をお願いします。ありがとうございました。